

嶋寄恒五郎編述



日本地理書

東京 開發社

凡 例

一此書は中等教育の諸學校の一年或は二年の教科書にし、且は又上級の歴史地理科の参考書等にせんとて編述せしものなり。

一教師は歴史上の事蹟を布行し、産物の標本名所繪などを、用ひて興味を添へられんとを望む。和歌は概、其地に關係ある名歌を擇びたれど、編者の寡聞なる爲に、擇方の宜しからぬもあるべし、省きも補ひもせられよ。

一地圖は此頃數多世の出でたれば、此書には添へず。然れども、地圖に就きて探り易き様に、注意して記述せり。

一山脈はなるべく其連絡を絶たぬやうに注意し、便利のため所々に分記したれど、既に各山脈に就きて學び終

りし後に一括して復習するを望む。  
一此書は特殊より概括に進む事を勉めたり、然れども特殊の事を授くる前に少しく一般の事柄を述ぶるを要する場合には教師の口授を望む。例へば川流を授くる前に山脈の方向を説明する事の如し、然れども其他の事は概略記し置けり。  
一寒暖計は攝氏によりたり、華氏の温度を求むるには左の式に由るべし。

$$\text{攝氏} \times 9 \div 5 + 32 = \text{華氏}$$

一本書は府縣の區劃に依らず、國別によりて記せり、これ搜索にも記憶にも便利なりと思ひてなり、且吾國の郵

便事務も國別によるを便利とせり。  
市邑の著名なるものは概本文に擧げられたれども、人口一萬内外の名邑にして省きたるも少からず、省きし名邑の重なるものをば國々の欄外の末に「其他の名邑」として掲げたり、猶詳に學ばんと欲する者のためにとてなり、其中にて右側に線を引けるは人口一萬以上の名邑なり。

緒言

地理學はもと乾燥無味のものに非ざれども、學校に於ける地理學は此弊に陥り易し。嚴密なる區劃を定め、細かなる組織を立つれば興味失せ、散漫なれば記憶し難く、忘れ易し。編者一學校に於て地理科を受持つに當り、如何にして右の弊を避けんかと考へ、自ら思へらく日本地理の區劃は今迄の如く國別に隨ひ、且各國誌を先にして概括を後にするが便利ならん、而して之に興味を添ふるには、歴史上の事蹟和歌名勝地文の大意をこそ交ふべきなれ、人は幼きも老いたるも或土地に就きて地理地形を探る間に、此等の事を聞くを喜べり。然るに學校殊に中等教育の學校に於て地理學が厭はしくなるは、必しも智識の糧の

多きに過ぐる故に非ず。吾拙けれども筆を取りて自ら之を試むべしと。かくて三十年の夏の初より稿を起し、課業の進むに随ひて筆を進めしが、度々中絶の後、今年漸、脱稿せしかば、更に近刊の諸書を参考して、猶前年になりし所など増補修正せり。此書の脱稿するまでに、良き地理教科書の世に出でしもの少からず見ゆれど、此書は甚多く和歌を挿み、歴史上の事蹟名勝を記したれば、他書と其趣を異にせり。只地理を教へんとてに非ず、面白く地理を學ぶ間に、自然の美を愛し、文學の趣味を養ひ、歴史の智識をも補ひ、且吾國と外國との關係を考ふるよすがにせんとてなり。されど其目的を達し得しか、覺束なし。之が爲に地理の塵塚とも見ゆるならんとは、編者のあらませる事な

がら、そは識淺く、業の拙き故なれば力なし。又必しも完備を求めず、一向に完備を求むれば多く實用上の興味を失ふ、さなきだに予は興味の薄からん事を恐る。但、自ら信ずる所の方針によりて編述せしむるに、廣き世間に同好の士もあるべければ、數多き地理書の中に、かゝる怪しき書物の一つあるも、なかくに興あらんと思ひて之を世に旅立せしむるなり。さるは子故に暗む親心の類にや。

明治三十三年二月紀元節の前日

編述者誌す

目 録

地球の事	一
日本帝國	七
畿 内。各國地誌。 山脉	一一
東海道。各國地誌	二三
東山道。中山道各國地誌。 奥羽各州地誌	四九
北陸道。各國地誌	七四
東海、東山、北陸三道の火山脉及其他の山脉	
山陰道。各國地誌	八八
山陽道。各國地誌	九九
中國山脉	

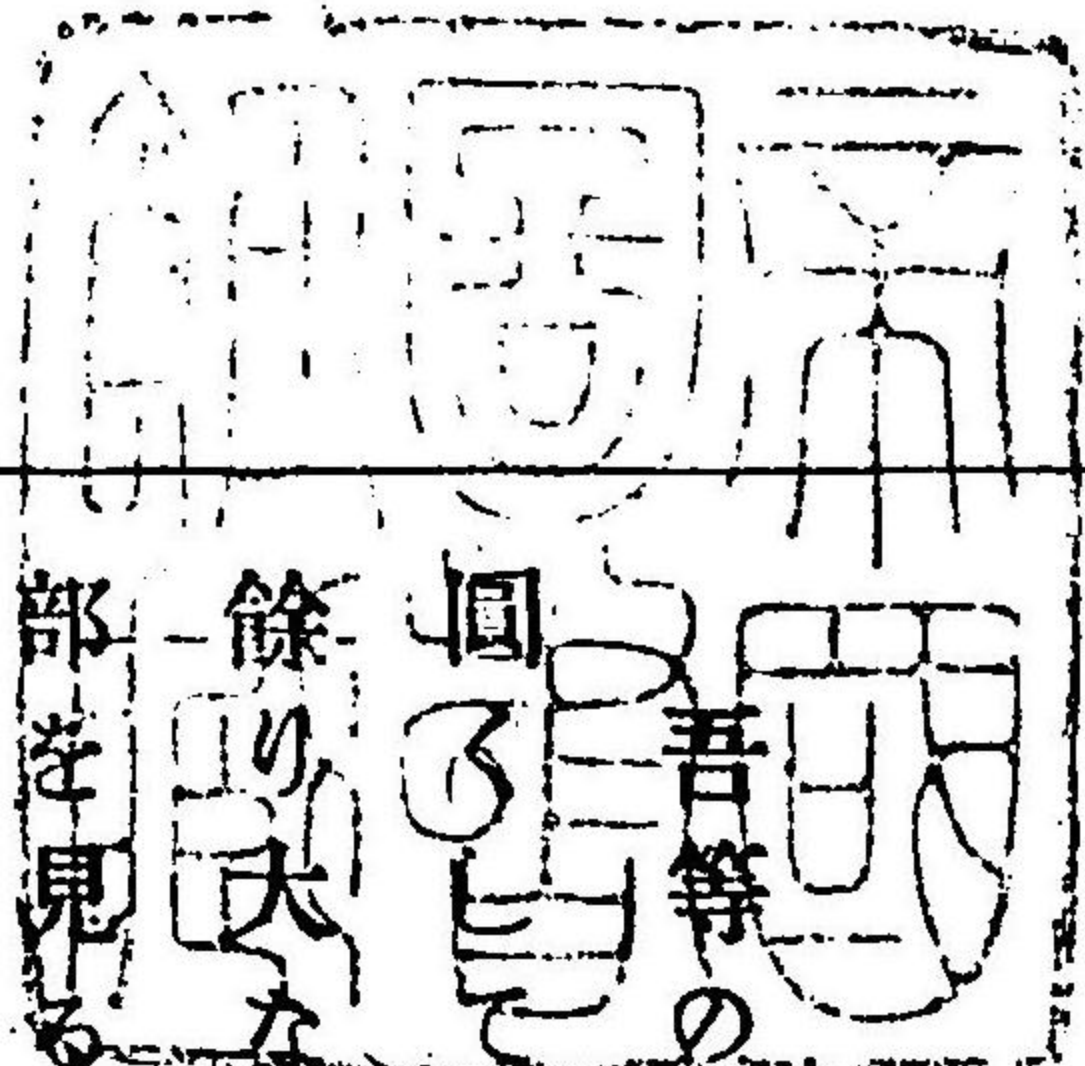
南海道。各國地誌……………	一一二
南海道山脉(四國山脉。紀伊山脉。四國火山脉)	
西海道。各國地誌。九州火山脉……………	一二五
北海道。各國地誌。北海道山脉。氣候。產物……………	一四九
臺灣……………	一六七
日本概括……………	一七七
第一、位置及面積……………	一七七
第二、山系及川流……………	一七九
第三、日本の沿海及港灣……………	一八四
第四、海流及潮流……………	二〇〇
第五、鑛泉……………	二〇四
第六、產物及生業……………	二〇七

第七、宗教……………	二一九
第八、教育……………	二三一
第九、軍備……………	二三五
第十、政治……………	二三三
附錄……………	三三九

# 日本地理書

島崎恒五郎編述

## 地球の事



吾等の住へる此世界は平かなる如く見ゆれども、實は其形球の如し、故に之を地球とぞ言ふ。地球は圓きものによりて吾等は其全体を見る能はず、只其一部を見るのみなり。總て圓きものは其形大なるに隨ひて、其一部愈平かに見ゆ。地球も亦然り。昔は人々世界を平かなる物と思へりしが、人智の進むに隨ひて、世界の球形なると疑なきに至りぬ。



地平線、吾等廣野又は海濱に出で、遠き所を見渡す時、山などに眼の遮らるゝとなければ、遙彼方に天と地(或は天と海)と相接せるを見る、これ地平線と云ふものなり。地球の圓き理由を知るには

其一、廣野の物体、或は海上の船を高き所にて見ると、低き所にて見るとの別によりて、

其二、船舶の地平線上に現れ來る時、又は地平線の外に失する時の有様によりて、

其三、月蝕の時、地球の影が圓く月の面に映るとによりて、

其四、一定の方向に進みて地球を一周するとによ

りて、

(此等の説明は談話によるが便利なれば茲に之を省く)

地軸、地球は球形なれども南と北と少しく平なるが故に正圓体には非ず、南北の直径を地軸(長さ三二二七里餘)と稱し、地軸の南端を南極、北端を北極と稱す。地球の兩極とは即、其南極及び北極を言ふなり。

赤道、兩極より同距離の所に於いて地球の表面を東西に周る一の假線を設け、之を赤道(周圍一萬〇二百里餘、直徑三千二百四十八里餘)と言ふ。

經度線、緯度線、地球の表面に在る各地の位置を明かに示すため、縦横に假線を引きて、其縱なるを經度線

と言ひ、横なるを緯度線と言ふ。

緯度線 は赤道と並行して地球の表面を東西に一周する線にして、且互に並行し、赤道の南北に在り。故に之を算ふるには赤道を起點(零度)として、南へは南緯幾度、北へは北緯幾度と言ふ。即赤道より兩極に至るまで南北各九十度なり、吾國の東京は北緯三十五度四十一分に在り。

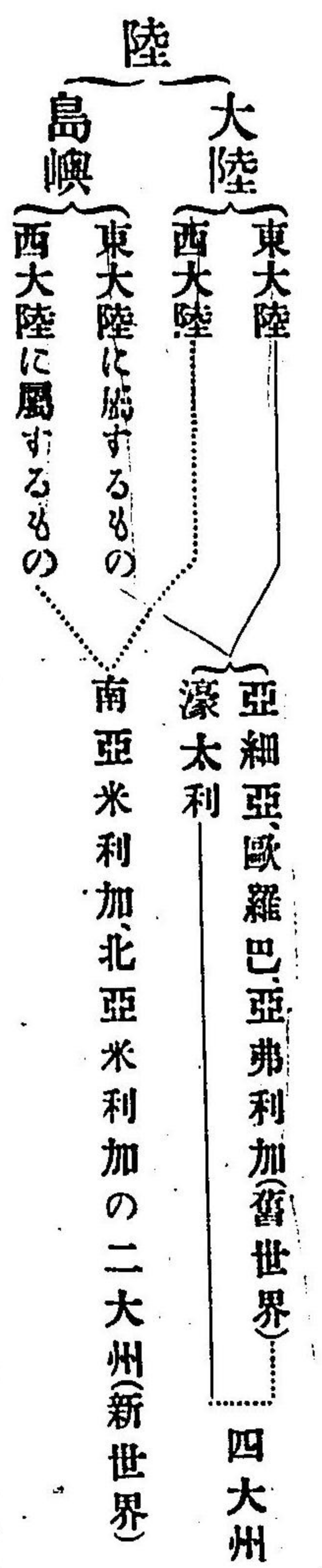
經度線 は赤道及び緯度線と直角をなして、南北に兩極を通過する線にして、之を子午線と言ふ。經度線と經度線との間の距離は赤道に於いて最遠く、兩極に近づくに隨ひて漸く狭し。經度線は英吉利國ロンドン府の

近傍なるグニチ天文臺を通過せる子午線を起點(零度)として、東へは東經幾度と言ひ、西へは西經幾度と算へて、東西各百八十度あり。吾國の東京は東經百四十度に位す。南北回歸線、赤道より南北へ各二十三度半なる地球面に一線を引き、北なるを北回歸線(夏至線)と言ひ、南なるを南回歸線(冬至線)と言ふ。日本の如く北緯に位する地の夏至には太陽北回歸線を直射し、冬至には南回歸線を直射するなり。

南極線、北極線、地球の兩極より二十三度半の距離に一線を引繞らし、北なるを北極線、南なるを南極線と云ふ。

熱帯、温帯、寒帯 南北兩回歸線の間は地球面の最熱き所にして、之を熱帯と云ふ。又兩回歸線と南北兩極線との間は温帯にして、之に南温帯、北温帯あり（日本は北温帯に位す）。兩極線より兩極に至る間は南寒帯、北寒帯にして、寒氣いと嚴し。此等の諸帯を地球の五帯と稱す。

水陸 地球の表面は水と陸とより成る。水面は陸より遙に廣くして、殆ど陸の三倍五分の三なり。水の茫々として廣く連れるは太平洋にして、之を太平洋、印度洋、大西洋、南氷洋、北氷洋の五部に分つ。又陸の大別は左の如し。



又地球を東西に二分して東大陸を控ふる部分を東半球とし、西大陸を控ふるを西半球とす。赤道より南には水面多く、北には陸地多し。

### 日本帝國

敷島の大和心を人間は、  
 旭に匂ふ山櫻花  
 これ國學の大家本居宣長の歌として、世にもてはやさ

る、ものならずや。さても花さくら木の人心を何物か  
此日の本に養ひ立てたりけん、蓋し氣候中和にして、山  
のたゞずまひ、水の流、海の有様などの優しく、美しく、清ら  
かに、鳥の聲、花の匂、紅葉の錦、月雪の景色、其折々に随ひて  
めでたく、をかしさが國民の心に及ぼしたる感化少から  
ざるべし。されば是より地勢、地名など探りがてら、其景  
色の美しきをもめて、舊りにし世の事、昔の人の跡をも忍  
びて大和心を養ふよすがともなしてんかし。  
曰本帝國は亞細亞州の東部に位し、西南より東北へ  
連亘せる狭長の島國にして、東と南は太平洋に面し、西北  
は支那海、日本海等を隔て、亞細亞大陸に對す。長さ千

百里、幅三十里乃至百里なり、臺灣島の南端より千島の北  
端迄、即ち北緯二十一度四十分より同五十一度四十分。古は全國を五畿七道六十六  
國に分ちたりしが、其後、畿内、八道、八十五國となり、此頃は  
又此等の外に新領地臺灣島加はれり。

畿内

五國 山城、大和、河内、和泉、攝津。

東海道

十五國 伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、  
伊豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、小笠原島。

東山道

十三國 近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野、以上中仙道六國、  
磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、以上奥羽七州。

北陸道

七國 若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡。

山陰道

八國

丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見隱岐

中國

山陽道

八國

播磨美作備前備中備後安藝周防長門

南海道

六國

紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐

西海道

十二國

筑前筑後肥前肥後豊前豊後日向大隅薩摩以上九州

北海道

十一國

渡島後志石狩天鹽北見根室釧路十勝日高膽振千島

臺灣

本土

(一に本州と言ふ)

とは山陰道山陽道紀伊(南海道)東海道東山

道北陸道の相連続せる土地の總稱なり。又本土四國(阿波讃岐伊豫土佐)九州淡路壹岐對馬隱岐佐渡を古は大

八州と稱へてこれ即太古の日本國なりけり

扱上に擧げたる畿内八道の中にて北海道を除く外は政治上の便宜に隨ひて府縣の區劃あり其時々之を示すべし。

畿内

畿内 は山城大和河内和泉攝津の五國よりなるが故に之を五畿内とも云ふ。南東北の三方に山脈あり西北は山陽道山陰道に界し東は東山道東海道に界し南は南海道の一部なる紀伊に境し西の一部のみ茅渟海に臨む。即攝津と和泉との海岸が灣入して此海を抱けるなり之を大坂灣とも云ふ。近江の琵琶湖より大坂に至る

まで淀川の流域は土地平かに且豊饒なり。  
畿内は京都府、大坂府、兵庫縣、奈良縣の二府二縣の管内  
にあり。

京都府

山城丹後、丹波の一部。

大坂府

河内和泉、攝津の一部。

奈良縣(天和)

兵庫縣

攝津の一部、丹波の一部、但馬、播磨、淡路。

攝津 畿内の西北に位し、南は概、大坂灣に臨む。國內  
平地多く、農商工の業共に盛にして産物夥し。○神戸  
は元寂しき村里なりしが、三十餘年前に港の開かれしよ  
り、いやましに繁盛に赴き、今は吾國第二の貿易港なり。  
港内水深くして大船を容るゝに宜しく、土地高燥にして

尼ヶ崎は  
佐々成政

清盛が熱  
病に罹り  
死にしが  
經死に  
兵庫の西  
に在り。

兵庫縣、  
播磨、  
但馬、  
淡路、  
一、攝津、  
二、丹波、  
郡、市、  
郡、波、  
郡、の

北に諏訪山あり、氣候人身に適す。輸出物は穀物、茶、生糸  
マツ、陶器、樟腦等にして、輸入品は金巾、砂糖、機械類、綿等な  
り。其西隣なる兵庫との間に名高き湊川あり。兵庫  
は今、神戸と相合して神戸市(人口二)をなし、兵庫縣廳あり。  
湊川社には楠正成を祀る。其西に福原の舊跡あり、即、平  
清盛が都を還し、所なり。神戸の北二十町の所に布引  
瀧あり、東北六里に有馬温泉(武庫山の西北麓)あり。又其西の須  
磨は風景よきを以て播磨の明石と共に古より名高く  
(蝸牛角ふり分けよ須磨明石、芭蕉)且、一の谷など源平  
の古戰場あり、敦盛等此所に討死せり。其近傍の高峰を  
鐵拐峰と云ふ。○神戸、大坂の間に西宮(人口一、萬四千)、尼ヶ崎(人口

の殺され  
し地なり  
灘は今津  
西宮、東  
中、西の  
五郷を云

大坂府  
河内、  
和泉、  
攝津、  
郡一市七

（千四）あり、尼崎は武庫川、池田川の間に位す。池田川に沿へる池田及び伊丹は灘と共に酒の名所なり。○大坂はもと浪華と言ひて仁徳天皇の都し給ひし所なり、商業の盛なるを吾國第一にして淀川に跨り、（八口七）溝渠縦横に通じて橋多きが中に、心齋橋、高麗橋は古より有名なれども、大なるは天満、天神、難波の三橋なり、淀川の下流は安治川（河村安治の遺功）木津川となりて大坂灣に注ぐ。全市を東、西南、北の四區に分ち、造幣局、第四師團司令部、大坂府廳、紡績會社等あり、名所には高津、今宮、天王寺、天満宮などあり、大坂城は豊臣秀吉の築きしものにして市の東部に在り、大坂の役に毀たれて今は本丸のみ残り、第四師團司令部其

其他の名  
邑（平野、  
住吉）

中に在り。○國學中興の祖、僧契沖此地に出で、其後、近松門左衛門（元祿より享保に至る間）も來りて妙筆を戯曲に揮へり。藻鹽やく難波の浦の八重霞一重は海人のしわざなり、けり、Ⅱ契沖○産物は綿糸、烟管、一貫張、西洋紙、日本紙、マチ、木綿、酒、米、麥、御影石等。  
和泉 攝津の南に在る三角形の國にして西は大坂灣に臨み、其沿海を和泉灘と言ふ。○堺（八口五）は大和川の左にあり、大坂を距ると三里半、鐵器及び段通を産す。昔は外國との貿易盛なりしが、神戸の開かれし後は其勢を奪はれぬ。妙國寺は有名なる寺にして大なる蘇鐵あり。  
岸和田は堺の南に在り。○産物は鐵器、段通、綿、烟草、麥、

酒

弓削道鏡  
も補正成  
も此國よ  
り出でた

河内 和泉と大和との間に位す。金剛山は東南隅、大和の界に在り、楠正成が千早城を築きし所にして金剛砂を出す。北方に四條堰あり。○大和川は大和より來り、國の中央を横斷し、和泉を経て海に入る。崇神天皇の御代に穿ちたる狭山池は今も猶灌漑の利あり。産物は河内木綿、米、麥、烟草、金剛砂等。

大和 畿内の最大國にして其東南を占む。東南、伊勢の境に大臺原山あり、吉野川は源を此所に發す。○吉野は吉野川(紀伊川の上流)の南に在り、後醍醐天皇此所に幸し給ひしより五十七年の間、南朝のありし所にして、古より櫻

の名所なり。

花より明くる三吉野の、春の曙見渡せば、諸越人も高麗人も、大和心になりぬべし。  
(頼山陽)

吉野山霞の奥は知らねども見ゆる限は櫻なりけり。

(八田知紀)

大和川は西へ流れ河内、和泉を過ぎて海に入る。十津川は南へ流れ紀伊に入りて熊野川となる、其近傍にて護良親王は兵を擧げ給ひしなり。又維新前に藤本鐵石等の天忠組の亂もありき。多武峰は吉野の北に當り、談山社に藤原鎌足を祀る。○奈良は國の北部に在り、一に南都とも言へり(人口二萬九千)。元明天皇の御代より七代の





吾庵は都  
のたつみ

師(最澄)之を開けり。西北の鞍馬山は源義経が武藝を修めし所なり。○伏見は京都の南にあり(人口一萬八千)、其地の桃山は豊臣秀吉が伏見城を築きし所なり。關原の戦の前に鳥居元忠此城を守りて討死しき。又維新の頃此所と近傍の鳥羽とに戦ありて之を伏見鳥羽の戦と云へり。伏見と淀とは京都大坂間の要路に當る。其南の巨掠池も秀吉の工事なり。○淀は宇治川と木津川との相會する所に在り、之より下流を淀川といふ。宇治川は佐々木高綱の故事によりて歴史上に其名高し。之は琵琶湖より來る勢多川の下流にして、茶の名所、宇治に至りて宇治川となるなり。加茂(鴨)川、桂川も亦之に會す。

しかぞ住  
む世をう  
ぢ山と人  
はいふな  
り(僧喜)  
撰木の花  
咲くこと  
もなかり  
なるはみ  
は悲しか  
り(頼政)  
其他の名  
邑(八幡  
山崎)

桂川は嵐山の麓を流るゝ大堰川の下流なり。宇治の平等院は源三位頼政の死にし所なり。笠置山は國の東南にあり、後醍醐天皇の行在所たりしによりて有名なり。「さしてゆく笠置の山を出てしより天が下にはかくれがもなし」の御歌は其時詠み給ひしなり。又其搖石も有名なり。産物は宇治茶、加茂川染、西陣織、清水焼、粟田焼等なり。(畿内の山脈) 葛城山脈は山城の西南より起り、河内大和の境を南へ走りて紀伊の境に至る、其中に生駒、二上、葛城、金剛の諸山あり。又愛宕山(山城丹波の境)、比叡山は中國山脈に屬す。

### 東海道

東海道は十五國にして一府八縣の下に管轄せらる。南は太平洋に面して港灣多く、北は東山道に境して山岳多し。土地概豊饒にして運送の便も宜しく、風景にも富めり。

府	東京府	府	三重縣	府	愛知縣
縣	伊豆の七島、小笠原諸島	縣	伊賀、伊勢、志摩、伊勢、紀伊の一部	縣	尾張、三河
國	武藏の一部、伊豆(七島を除く)、駿河、遠江	國	武藏の一部、相模	國	甲斐
府	静岡縣	府	神奈川縣	府	山梨縣
縣	伊豆(七島を除く)、駿河、遠江	縣	武藏の一部、相模	縣	甲斐
國	武藏の一部	國	安房、上總、下總の大部	國	常陸の一部
府	埼玉縣	府	千葉縣	府	茨城縣
縣	武藏の一部	縣	安房、上總、下總の大部	縣	常陸の一部

其中にて海を離れたるは伊賀、甲斐なり。半島には志摩、伊豆、三浦半島、房總半島あり。灣には伊勢海、駿河灣、東京灣あり。大平野は武藏、尾張に在り。○相模の箱根は本道の中央に在り。昔、此所に關門を設けたりしによりて、之より西を關西と云ひ、東を關東といへり。其東西の人情、風俗相異なりて、關東は東京に倣ひ、關西は大坂に倣ふ。關東八州とは相模以東の六國と東山道の上野、下野を合せて云ふなり。

伊賀 東海道の西部に位し海を離れたる小國なり。上野(八口一萬四千)の都會あり。此國は俳句の大家松尾芭蕉の生地なり。

枯枝に鳥のどまりけり秋の暮(芭蕉)

其他の名  
邑(名張)

鈴鹿山  
をよ  
そに  
ふり  
すに  
い  
かに  
なり  
ゆに  
吾身  
なる  
らん  
(西行)

三重縣  
伊賀  
伊勢  
志摩  
紀伊  
郡

産物は茶、煙草、伊賀焼。

伊勢東は伊勢海に臨む、西北、近江との境に鈴鹿山脉あり、鈴鹿山は鈴鹿關の在り所なり。東南の方、宮川の東に宇治、山田(人口合せて二萬八千)あり、昔、垂仁天皇の御時、天照太神を大和の笠縫邑より宇治に遷し、雄略天皇の御時、豊受太神を丹波より山田に遷し、内宮、外宮として之を祀れり。五十鈴川其傍を流る。東に朝熊山、二見浦あり、西北に松坂あり、松坂は本居宣長の生地にして松坂織を産す。更に其北に津(人口三萬)あり、元阿濃津と云へり、藤堂氏三十二萬石の舊城地にして阿漕浦に臨み、三重縣廳あり。津と山田との間に參宮鐵道通ず。○四日市(人口二萬五千)は伊勢海の要

四日市と  
其西南  
山との  
間に能  
あり能  
野  
其他の名  
邑(龜山)

港にして横濱及び神戸との間に定期航海あり。其東北の桑名は(人口二萬)木曾川の西に位す。木曾川は信濃より來り、美濃の諸川と合して此所に注げるなり。桑名の産物は萬古焼、時雨蛤にして、其外、伊勢の産物には茶、藍形紙、材木、伊勢海老、綿糸、菜種、山田の春慶塗等あり。志摩 伊勢の東南に斗出せる小き半島國にして、北に鳥羽港あり、昔、遠州灘の航海には重要な港なりしも、今は四日市にけおされたり。的矢港は其南に在り。的矢港の東南の安乗岬には燈臺の設あり、遠江の御前崎と相對して遠州灘を抱く。産物は鯛、鯉、眞珠、海草等の水産物なり。

愛知縣尾張、名古屋の東に在る。長瀨は徳川家康が豊臣秀吉の軍を敗らし、此所に死したる所なり。熱田は伊勢海に臨み、社あるによりて一名を宮と云ふ。此社には草薙劍を祀れり。○熱田の東南にある鳴海、有松は絞の名所なり。有松の南に桶狭の古戰場あり。更

尾張 武藏に亞ぐ平野の國なり、北は美濃に連りて濃尾平原をなす。名古屋は吾國第四の都會にして(人口四)舊三家の一なる尾州侯六十一萬石の舊城地なり。城の天主閣には金の鯨(高さ八尺五寸)輝けるが故に此地を金城とも云ふ、第三師團司令部及び愛知縣廳あり。○東北の瀬戸村には瀬戸焼を産し、西北の清州は織田信長が城居せし所、又北方の小牧山は徳川家康が秀吉と對陣せし所なり。熱田(人口二)は名古屋の南に在る要港にして伊勢海に臨み、熱田社あるによりて一名を宮と云ふ。此社には草薙劍を祀れり。○熱田の東南にある鳴海、有松は絞の名所なり。有松の南に桶狭の古戰場あり。更

其他の名邑(津島、一宮、龜崎、盤江)

に南に斗出する知多半島は、西に伊勢海、東に衣浦を控へ、東岸に半田港、武豊港あり、西岸に陶器の名所常滑あり。南端を師崎と云ふ、三河の渥美半島と相對せり。織田信長、豊臣秀吉、加藤清正は此國より出でたり。○産物は米、麥、綿、藍、宮重大根、七寶燒、豐樂燒、瀬戸焼、常滑燒、名古屋織、名古屋扇、鳴海絞、マツチ等。

三河 中央に矢矧川あり、大平川東より來りて之に會し、其所に岡崎(人口七千)あり、徳川家康の起りし所にして本多氏五萬石の舊城地なり、漆器を産す。其東南に豊川あり、此三大川あるが故に國名を三河と言ふなり。豊橋(人口一)は豊川の南岸に位し、第三師團の分營あり。其上

渥美半島の田原に渡邊華山の墓あり

流に鳳來寺山及び篠原城(武田勝頼之を圍みし時信長兵)の跡あり。渥美半島は南部に在りて西へ斗出し、伊良胡崎其西端に在りて内に渥美灣を抱く。渥美灣と衣浦とを合せて三河灣と云ふなり。産物には三河木綿の名産あり、其外に名倉砥雲母、御影石を産す。

遠江 西南に濱名湖あり、今より四百餘年前に海瀧に其湖口を破られて灣となるが故に、今は濱名灣とも云ひ、其入口を今切と云ふ、此所に長さ一里の鐵橋懸れり。灣内水深く小湊船往來し、風景もよし。其東の濱松(一萬九千)は此國第一の都會なり、北に三方原の古戰場(武田信玄家康を破れり)あり。天龍川は信濃の諏訪湖より來り、其末二派に分

其他の名邑、掛川、相良、横須賀、眞淵は本居宣長の師なり

れて大天龍、小天龍となり遠洲洋に注ぐ。東南に斗出するは御前崎なり、御前崎の西北に高天神山あり。東境に大井川あり。國學者加茂眞淵は濱松より出でぬ。○産物は茶を第一とす、其外、藍、綿、煙草、砂糖、相良(東南部)の石油等あり。

駿河 西は大井川によりて遠江に境し、安部川、富士川其東に在り。大井川は常には水少く且淺ければ、昔大井川の涉渡とて名高かりき。水路凡四十五里、雨降りて水出づる時は、其幅一里に及ぶ、然れども河口は十八町許なり。安倍川は一に藁科川と云ひ、其東の静岡(四萬)は駿府、又府中と稱し、徳川家康が隠居せし地にして漆器、竹

静岡縣  
遠江、駿河、伊豆諸島を除く

細工を産し、静岡縣廳あり。龍爪山其北に聳ゆ。東南の久能山は家康を葬りし所なり。東に三保崎あり、駿河灣深く東北に入込みて灣の東に伊豆半島有り。三保崎の内なる清水港は良港なり。南に三保、松原あり、北の對岸に清見潟、澳津あり、是より東の沿海を田子浦と云ひ、猶其東を江浦と云ふ。此あたりの風景所々にいとめでたし。

清見潟月澄むよはの浮雲は

富士の高根の烟なりけり (西行法師)

日本三急流  
羽前の最上川

○富士川は日本三急流の一にして甲斐より來り、(幅廣)田子浦に注ぐ、遙に其東に沼津(人口一萬)あり。○富士山

駿河の川、富士の肥後、球摩



田子浦より富士山を望む

は甲斐に跨れる休火山にして、白扇倒懸東海天の趣あり

臺灣の高山を除かば吾國の

最高山なり (高さ一萬二千四百尺) 其頂

に清水の湧き出づるあり、金

明水、銀明水と云ふ。

田子の浦ゆ打出て、見れ

ば眞白にぞ富士の高根に

雪は降りける。(赤人)

心あての雲間は猶も麓に

て思はぬ空に晴る、富士

の根。(天菅中養父)

富士山に  
登るには  
大宮口、  
須走口、  
吉田口等  
あり。

富士山の  
南麓を裾  
野と云ふ  
野永山は  
富士の東  
方に山腹  
に在り  
其他の名  
邑(島田、  
藤枝、江  
尻原)

あはれ見る度毎にうら珍しき此山は、古より遠近の勝地  
に一きはの光彩を添へ來れり、又幾度となく歌枕となり、  
畫にも描かれたり。いかばかり人の心を高潔ならしめ  
けん、國民の性情にいかばかり優雅の氣品を養ひ立てけ  
ん、行末も亦變らざるべし。此山に登るには概先、東北の  
御殿場に至りて須走口より登るなり。愛鷹山は富士山  
の南に在り。焼津は海邊の西部に位す、日本武尊が焼か  
れんとせし時、寶劍を抜いて草を薙ぎ給ひし所なり。産  
物は茶(安倍)、烟草、砂糖、澳津鯛、鰩、鯉、駿河半紙、漆器、竹細工等。  
甲斐 西境に赤石山脉あり、東北に關東山脉、南境に富  
士山あり、北境に八ヶ岳ありて海を離れたる山國なり。中

山梨縣  
(甲斐)  
(一四)

富士川を  
舟に下  
れば、川  
より八里  
迄の間を  
日間に達  
す。

央は富士川(上流に笛吹川、釜無川あり)の流域にして所謂  
甲府平原なり。甲府平原の東部を郡内と云ふ。○甲府  
は笛吹川に沿ひ(人口三萬六千)、山梨縣廳の在る所なり、製糸、織物、  
麥酒、葡萄酒を産す。北に武田信玄の城跡あり、猶其北に  
金峯山あり。東の天目山は勝頼の討死せし所、西南の身  
延山は日蓮宗の本山なり。釜無川は富士川の上流にし  
て信濃より來り、鰍澤を経て駿河灣に入る。馬入川は相  
摸に入り、上流に猿橋あり、木を組み、柱を用ひずして之を  
架す。○産物は郡内の甲斐絹、勝沼の葡萄酒を初とし、麥  
酒、水晶(金峰)、雨畑硯あり。  
伊豆 駿河灣と相摸灘との間に在る半島にして、南に





箱根の坂  
路を箱根  
八里と言  
へり

西南箱根山の上にある、昔關所のありし所にして蘆湖に  
臨み風景よし。箱根山は熄火山にして蘆湯の温泉を初  
とし、其東麓の湯本に至る迄温泉甚多し。蘆湖の水流れ  
て早川となり相摸灣に入る。箱根山を東へ越ゆれば近  
傍に石橋山(源頼朝が戦に敗れし所)あり。それより早川を過ぎて東  
へゆけば小田原に至る。小田原(人口一萬六千)は海に沿ひ漁  
業盛にして梅干を名産とす、北條氏の城跡あり。其西南  
の石垣山は秀吉が小田原征伐の時陣營を設けし所なり。  
猶進みて酒匂川を渡れば東に大磯あり、富士山近く見  
えて風景宜しく有名なる海水浴場にして、且藤原俊基の  
斬られし所なり。北に大山(雨降山と云ふ)あり。東の馬入川

伊豫に生  
れ開祖に  
の遊に宗  
上人と云  
ふ上と云  
ふ大隆の  
道隆の師  
に建時  
頼朝の師  
しもの建  
佛光禪師  
祖元禪師  
に北條の  
宗の建時

は甲斐より來りて海に入る。○横須賀(人口一萬八千)は三浦  
半島の東岸に在り東京灣に臨み第一海軍鎮守府及造船  
所海軍機關學校あり。其東南の浦賀も良港なるが嘉  
永六年米國水師提督ペルリが四艘の軍艦を率ゐて來り  
しによりて名高くなれり。東端の觀音岬は上總の富津  
岬と相對して東京灣の口を扼し堅牢なる砲臺あり。逗  
子は横須賀の西に在りて相摸灣に臨む。藤澤には僧一  
遍の建てし遊行寺あり、時宗の本山なり。鎌倉は源頼朝  
が幕府を開きし地にして舊跡甚多く鶴岡八幡(右大將實朝此所にて殺  
たり)建長寺圓覺寺など今猶存せり。其西の海濱に稻村  
崎七里濱あり。江島は海中の勝地なり。



千代田城  
は太田道  
灌の築き  
しもの

東京府  
武蔵の  
一郡六  
市の伊  
豆七島  
の笠原  
小島

にして宮城は中央に在り。周圍に堀を繞らし、松の老木  
其上に茂り、鴨、鴛鴦など水に浮べり。昔、徳川家康が幕府  
を茲に開きて千代田城を改築せしより殆、三百年の間三  
百の諸侯邸宅を此地に置きて江戸の繁榮いませりし  
が、明治元年帝都となりてより一きは盛大に赴けり。氏  
康が武蔵野といづこをさして分け入らむ、行くも歸るも  
はてしなればと詠みし武蔵野原に、今は貴族院、衆議院  
東京府廳をはじめ、諸官衙、會社、東京帝國大學、第一高等學  
校、其他の公立私立諸學校、近衛師團司令部、第一師團司令  
部、士官學校、戸山學校、陸軍大學校、海軍大學校、諸外國公使  
館等在るなり。全市を十五區(日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、麴町、四谷、牛込、小石川、神田、本郷、下谷、淺



草本所)に分つ。陸には東海道鐵道、中山道鐵道、東北鐵道

帝國大學の圖

甲武鐵道、總武鐵道あり、海に  
は船舶の便あり。又横濱と  
の間は汽車一時間の里程な  
り。公園は上野、芝、九段、阪(招  
社)などに在り。上野公園は  
東叡山にありて、其麓の不忍  
池には蓮多し。東叡山は天  
海和尚之を開き、中に寛永寺、  
東照宮、圖書館、動物園、音樂學

校、美術學校等あり、櫻も多し、此外に折々の遊樂地少から

神奈川縣  
相模  
武蔵の  
六郡

ず、向島、飛鳥山、小金井の櫻、龜井戸の梅及藤、大久保のつゝ  
じ、團子坂の菊、瀧の川の紅葉など市の内外に在り。  
上野の花に日ぐらしや、明日は淺草、飛鳥山、心々に向島  
春の遊そのどかなる。  
(本居内遠)

市内は山、手下町に分る、下町は商家多くして、其飲料水は概  
多摩川上水、神田上水を用ふ。○横濱(九萬)は東京の西  
南八里にあり、東は東京灣に臨み、神奈川驛(七千)に近し、  
三十餘年前より次第に盛大に赴き、吾國第一の貿易港に  
して神奈川縣廳、正金銀行、諸條約國の領事館あり、東南に  
本牧岬斗出ず。金澤は横濱の南に位し(北條顯時が金澤  
景の勝あり。○浦和(七千)は東京の西北に在りて中山

埼玉縣  
武蔵の  
一部

其他の名  
邑(大森、  
品川、千  
住、板橋、  
大宮、府  
中、青梅、  
熊谷)

道の通路に當り、埼玉縣廳の所在地なり。川越(八千)  
は東京の西北凡十一里に在り、川越城の在りし地にして  
川越平、甘藷を産す。八王子(八千)は東京の西十二里、  
甲州街道に在りて製糸織物に名あり。

産物は麥、甘藷、大森の海苔、王子の西洋紙、八王子及秩父の  
織物、埼玉の板紙、東京の錦繪、鼈甲細工、蒔繪、マツチ等なり。

安房 房總半島の南端なる小國にして、北は房總山脉  
によりて上總に界し、其中に鋸山、清澄山あり、他の三面は  
海に臨む。土地狭く、山川小く、地味亦宜しからず。海岸  
の民は漁業を營み、漁船によりて魚類を東京に運ぶ。北  
條及館山は共に館山灣に臨み、海水浴に宜しく、昔里見

氏の居城ありし所なり。南端に野島崎あり、又東北端の



小湊誕生寺の圖

小湊は僧日蓮の生地なり。○産物は農産に藍烟草あり、水産は鯷、鯉、鮪、青魚、鯛、蝦、章魚等にして其額甚夥し、山地には石材、木材を出す。

上總 安房の北に在り、東は太平洋に面し、西は東京灣を隔て、武總に對す。西端の富津は相摸の觀音岬と相對して東京灣の口を扼す。西南の鹿野山は風景を以て

著る。地味一般に宜しからざれども、北部には沃地ありて米麥を産し、沿海は漁業の利多し。所謂九十九里濱(長さ十里)は其東岸に在り。○木更津(富津の東北)、舞鶴(清澄山の北)、勝浦(東南)、等の名邑あり。産物は米、麥、烟草、鹿野山の木材等にして、水産は概、安房に同じ。

下總 東は太平洋、西は東京灣に臨む。國內、山岳なくして平野多し、中にも習志野、小金原、小間子野原、有名なり。此平野の北を流る、大川を利根川と云ふ。○利根川は源を上野に發し、武藏の北境に沿うて下總に入り、關宿に至りて二に分る。支流は江戸川となり、武藏との境を流れて東京灣に注ぎ、之に沿ひて野田(將油の名所)、流山(味淋の産地)、

千葉縣  
安房、上総、下総の大部  
其他の名  
邑(船橋、佐原、水海道)

市川、行徳(鹽の産地)の名邑あり。市川の傍にある鴻臺は四百年前、北條氏康が里見氏を亡ぼしたる古戦場にして其東北に小金原、東に習志野あり。又利根川の本流は東南へ流れて鬼怒川(編、川)、小貝川(共に下野より来る)と會し、手賀沼、印旛沼(周回十、二里)、長沼の北を流れて鹿島洋に注ぐ。○千葉(人口八千)は東京灣に臨み、千葉縣廳及び第一高等學校醫學部の所在地なり、總武鐵道東京より來りて東北、佐倉を經、東端銚子に至る。佐倉は印旛沼の南に在り、堀田氏十一萬石の舊城地にして佐倉炭の産地なり、其近傍に木内宗吾の墓あり。銚子(人口一萬六千)は利根川の口に在り、有名の漁場にして水陸共に交通の便利よく商業盛なり。東南の

筑波山の北に波山あり

岬を犬吠岬と云ふ。成田は印旛沼の東に位し、成田不動尊あり。其他、西北隅に古河(人口一萬)、最北に結城(人口一萬一千)あり。○産物は南に米麥を産し、北に茶及び馬を産す。海産物は概安房、上総に同じ。製造品は流山の味淋、野田の醤油(日本)、結城油、銚子の縮醤油、行徳の鹽。  
常陸 東海道の東北部に位し、東は太平洋の鹿島洋に面す。概平地なれども北部には山多くして、阿武隈山脈の南端なる八溝山など下野の境に連る。筑波山は平野に聳ゆる名山なり。利根川は一に坂東太郎と云ふ、上野、下總を經て此國の南境を流れ、霞浦、北浦の水を合はせ海に入る。霞浦(周回三十六里)は吾國第二の大湖にして風景

茨城縣  
下總郡  
常陸部



よく、其西北隅に土浦(人口一萬一千)あり。○水戸は(人口三萬二千)那珂川に沿ひ、水戸侯三十萬石の舊城地にして徳川光圀、齊昭、藤田東湖など出て、學問の借盛なりし所なり、借樂園、弘道館、今猶存し、茨城縣廳此所に在り。其東に當り那珂川の河口に湊(人口一萬二千)、磯濱(人口一萬)あり。那珂川の北に在る久慈川は磐城より來りて灌漑運送の便多し。東北隅に平瀉港あり。稍、其西の濱街道に

其他の名  
邑(石岡、  
龍崎、笠  
間)

勿來、關趾(磐城との境)あり、源義家の歌によりて有名なる所なり。

吹く風を勿來の關と思へども

道もせに散る山櫻かな (源 義家)

○産物は酒、醬油、烟草、麥、藍、鱈、鯛、大理石。

### 東山道

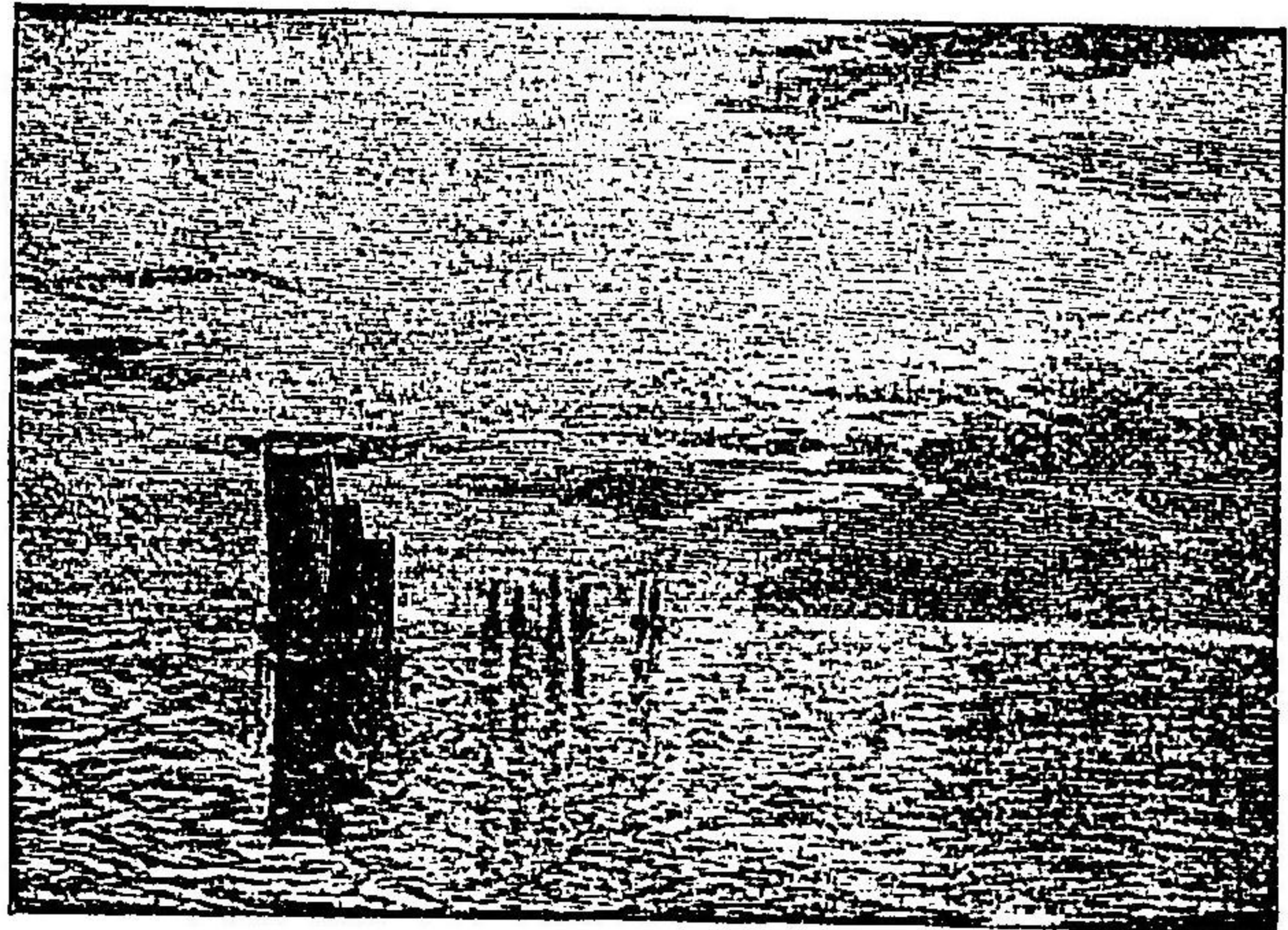
東山道は畿内の東北(近江)より東北へ向ひて津輕海峽に至る間の長き土地にして其内、近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野の六國は東海道と北陸道との間に挟まり、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽後、羽前の七國は其東北に在りて、且、岩代



の外は日本海、或は太平洋に沿へり。全道十三國ありて、前の六國を中山道と云ふ。後の七國は奥羽七洲と呼ばれ、中山道と同じく其長さ百五十里なり。○本道は十一縣に分轄せらる、即下の如し。

滋賀縣 近江	岐阜縣 美濃、飛驒	長野縣 信濃
群馬縣 上野	栃木縣 下野	福島縣 岩代、磐城の大部
宮城縣 陸前の大部、磐城の一部	岩手縣 陸中の大部、陸奥と陸前との一部	青森縣 陸奥の大部
秋田縣 羽後の大部、陸中の一部	山形縣 羽前、羽後の一部	

琵琶湖は又鷺ノ海とも云ふ。信長が淺井長政、朝倉義景を打ちし、姉川の戦い。の東にあり。在り。



近江 北は若狭、越前(北陸道)

に界し、山城の東に在り、低地にして沃野多し。中央の琵琶湖は吾國第一の大湖にして、周囲六十里、南北十六里あり。此國の名は湖水、即淡海(あふみ)より起りしなり。湖水は中に沖島、竹生島などありて、風景に富み、近江八景の稱あり、湖上運送の便多く、魚漁の利も少からず、近邊の水

此所に集りて西南に出づ、これ勢多川(山城に入りて宇治川となる)なり。

滋賀縣  
近江

○大津(人口三萬二千)は琵琶湖と勢多川とに沿ひ、大坂敦賀(前越)名古屋へ同距離にして鐵道の便利宜しく、滋賀縣廳の在る所なり。天智天皇の志賀の都(宮大津)の舊跡、其近傍に在り。

小波や志賀の都はあれにしを昔ながらの山櫻哉

(平 忠度)

北に在る唐崎の一本松(幹の周圍五尋)、南の石山寺、西の三井寺共に名高く、西南の逢坂山は逢坂關の在りし所なり。比良岳は比叡山(山城)の北に在り、此國第一の高峰なり。草津は伊勢よりの關西鐵道と東海道鐵道との會合點に當り、大津の東に在り。其東北の彦根は(人口二萬)井伊氏三十五

彦根はもと和山  
と佐和山  
といひし  
所なり

秦淺み野  
中の清水  
水の心ど  
む人ぞな  
り(直彌)

中江藤樹  
の住ひし  
大津在湖  
川の西に  
り其他の  
邑八幡、  
水口、日  
野、堅田

萬石の舊城地にして琵琶湖の東岸に在り。井伊直彌は此地より出でたり。其東北の米原は敦賀に達する鐵道の岐點なり。其北に縮緬の名所、長濱あり。(濱縮緬は薩摩飛白と同時代に盛になれり即ち八代將軍吉宗の元文年間なり)猶其北に在る余吾湖の近邊は養蠶盛なり、余吾湖の西南には秀吉が佐久間盛政を敗りし賤岳あり。又信長が安土城を築きし所は琵琶湖の南岸なり。○國人商業に巧にして豪商多く、近江商人の名世に高し。又近江聖人中江藤樹は人のよく知れる所なり。産物は米、藍、茶、長濱の生糸、及縮緬、琵琶湖の鯉、源五郎鮎、其他陶器、八幡の蚊帳、麻布等なり。

岐阜はも  
と稲葉と  
云ひ織田  
信長が齊  
藤龍興を  
亡し、所  
に於て城  
のありし  
稲葉山は  
山委秀  
靈。美濃  
飛驒。

美濃 北は越前に界し、西は膽吹山脈によりて近江に  
境す。國內に木曾川、飛驒川、長良川、揖斐川あり。膽吹山  
の南の通路には不破關(膽吹山脈と鈴鹿山脈との間に在りしなり)ありしによ  
りて其近邊の平原を關原と云ふ。石田三成が徳川氏と  
戦ひし古戰場なり。南に養老瀧あり。東に大垣(二萬口)  
あり。大垣を東へ行き揖斐川、長良川を越ゆれば岐阜に  
至る。岐阜(三萬口)は東に稲葉山を負ひ、長良川に沿ひ、提  
灯及び團扇の名産地にして岐阜縣廳あり。長良川の鵜飼  
舟亦有名なり。○中山道の通路は東へ向ひ各務野を過  
ぎ、木曾川谷に沿うて信濃に入る。木曾川は飛驒川と合  
し、尾張の境を流れて諸川の水を容れ、伊勢海に注げり。

大垣石は  
大理の西  
北なる赤  
坂より出  
づ。

諏訪の海  
の氷か上  
をゆきか  
へり波を  
尋ぬる千  
鳥鳴くな  
り。香川  
景樹

○國內に加茂野、各務野、大野の三野ある故に國名を美濃  
三野と云へるなり。産物は美濃紙、陶器、鮎、生糸、茶、麥、藍、縮  
緬、大理石。  
飛驒 高原の地にして山岳多く氣候甚寒し。白川は  
北流して射水川となり、宮川、高原川も北流して相會し、神  
通川となり、各越中に入り、益田川は美濃に入りて飛驒川  
となる。高山(八口一萬四千)は此國の都會にして中央に位し、  
位山其西南に在り。産物は漆、銀、鉛、生糸、眞綿、位山の一位  
細工。  
信濃 美濃、飛驒の東に在り、吾國第一の大國にして十  
國に界し、土地高く氣候寒冷なり。中央に諏訪湖(周二十四

丁)あり、景色美しく山間に富士山見ゆ、冬は湖水氷りて人馬其上を歩む。諏訪社には健御名方を祀れり。千曲川は源を東南境の國司岳に發し(甲斐の笛吹川も然り)、犀川は鳥居峠に發し(木曾川も然り)、川中島に於て相會し、越後に入りて信濃川となる。又天龍川は諏訪湖より出で、南流し、遠江を経て海に入り、木曾川は西南へ流れて美濃に入る。

○國內に平と名くるもの四所あり。第一は佐久平にして千曲川の上流に沿へる地を云ふ。第二は善光寺平にして犀川の千曲川に會する近傍の地を云ふ、即、川中島にして上杉謙信武田信玄の古戰場なり。第三は犀川に沿へる平地にして松本平と云ふ。第四は諏訪平に

天龍川に  
沿へる  
諏訪湖  
の地  
長野縣  
長野縣  
(信濃)

月の名山  
は  
上野山  
の  
代田松  
に  
在り

して湖邊の平野を云ふ。谷には木曾川谷、天龍川谷(諏訪平と)、伊那谷(飯田と)あり。○長野(人口四萬)は善光寺平に在りて千曲川に沿ひ、長野縣廳の在る所なり、且有名なる善光寺ありて市の繁昌を助く。松代は長野の東南に在り、佐久間象山の生地なり。松本(人口三萬)は松本平に在り、養蠶盛にかつ種紙を以て有名なり。飯田(人口四萬)は天龍川の西に在り、元結紙、傘漆器を産す。木曾は材木に名あり。上田(人口二萬二千)は千曲川に沿ひ、長野の東南に在り、眞田昌幸が城居せし地にして生糸、上田縞の産地なり。碓氷峠は信濃、上野の境に在り、日本武尊が橘姫を追懷して、吾妻はやと歎かれし所なり。其西北に在る淺間山は活火山

信濃の野井の  
濃の間の横川  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に  
の碓氷峠に

なり。



淺間の山の圖

信濃なる淺間の岳に立つ  
烟遠近人の見やはとがめ  
(在原業平)

鐵道は碓氷峠を經、上田、長野  
を過ぎて越後に入る。産物  
は生糸、繭に富むと吾國第一  
なり、其外、酒(攝津に)、米、麥、大豆、  
更科蕎麥、木曾の材木、及び馬  
上田、縞等。

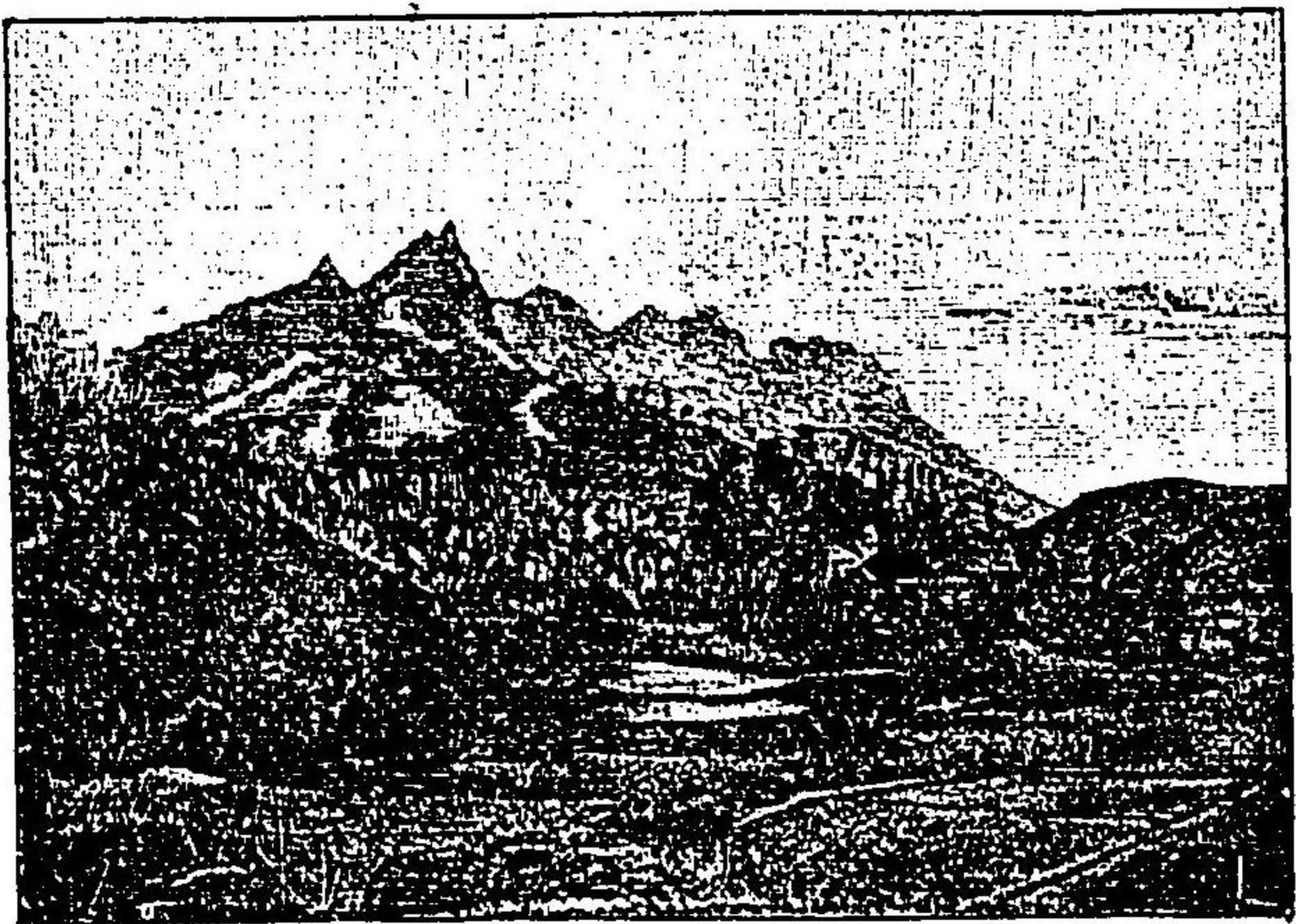
上野 利根川の上流に位し、北境に三國山脈あり、南は

群馬縣  
(上野)

其他の名  
邑安中、  
沼田、館  
林)

武藏に界す。東南の前橋(人口三萬)は群馬縣廳のある所  
として製糸の業盛なり。其東南の伊勢崎は銘仙を以て名  
高く、又其東の桐生(人口三萬)も織物の産地として甚有名  
なり。高崎(人口八千)は前橋の西南に位し、第一師團分營あ  
り。其西南の富岡には有名なる製糸場あり。○片品川  
は國の東北隅なる日光、白根の山陰より來り、吾妻川は吾  
妻山(山阿)より發し、各利根川に會す。此の如く利根川  
は諸川の水を集めつゝ、東南へ流れ、武藏の境に沿ひて下  
總に入る。○赤城山(前橋の北)榛名山(高崎の西北)妙義山(高崎の西  
岩多)は此國の三山として、名高く、何れも消爽山なり。又  
榛名山の近傍に在る伊香保、吾妻川の上に在る草津は

小野篁、足利に足、利根校を、上杉憲實、創立し、之を再興せしむるあり



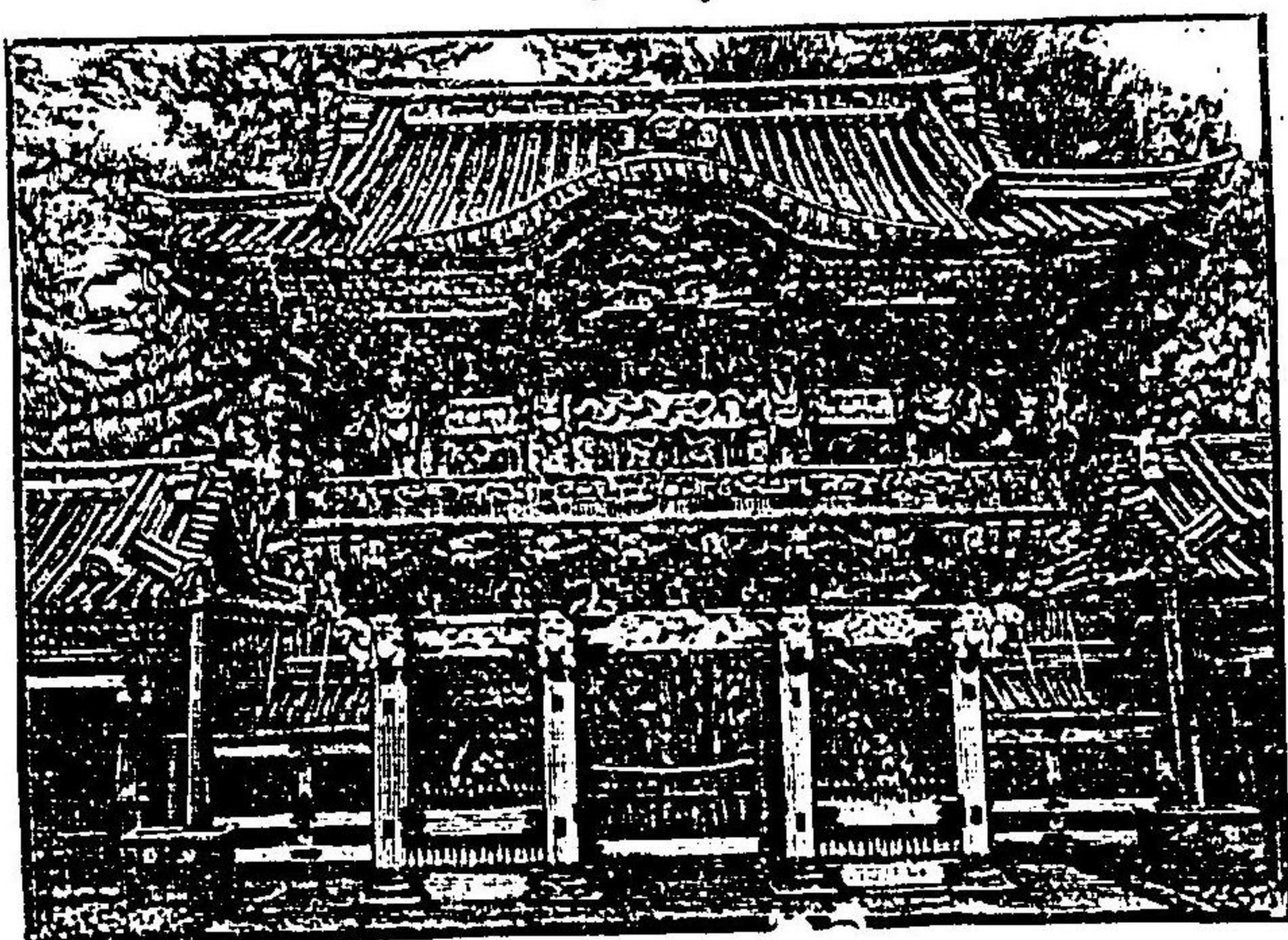
妙義山の圖

共に有名なる温泉場なり。三國峠と清水越とは越後への通路なり。○産物は繭、生糸、織物、麥、大豆等。

**下野** 上野の東に在り、北は帝釋山脉によりて岩代に界す。國の形、上野に似て、同じく生糸、織物の産地なり。

○**足利** (人口一萬八千) は國の西南に在りて、渡良瀬川に沿ひ、上野の桐生と共に織物の産地として有名なり。鐵道は足利を経て小山に至る。小山

栃木縣(下野)國の東北隅に那須岳あり



日光陽明門の圖

は東京、青森間の東北鐵道及水戸鐵道兩毛鐵道の會合點なり。其北に在る**宇都宮** (人口三萬五千) は鬼怒川の西に位し、栃木縣廳あり、干瓢を産す。鐵道茲に分れて二となり、一は東北へ向ひ、那須野原を経て磐城、岩代に入り、一は西北の日光に至る。**日光**は徳川氏の祖家康の廟(東照宮)の在る所にして、三代將軍家光の時、百萬兩の財を費して之を經營せり、結構壯麗にして黃

其他の名  
邑(佐野、鹿  
沼、鹿沼)

金の光目もあやに、いとゞいかめしきのみならず、其山水の趣致甚、幽邃なり。山林には杉、檜の良材あり。日光山彙の中にて最高きを黒髪山(一名男体山)と云ふ。中に中禪寺湖(周回約八里)あり、水深く且清くして林茂れり、其水溢れて華嚴瀧となる、下流は大谷川にして東へ流れ、國の西北隅、鬼怒沼より來る所の鬼怒川(産す)に入る。日光塗は此地の産物なり。日光の南に足尾の銅山あり(人口二萬五千)、吾國第一の銅山なり。栃木(人口二萬二千)は小山の西北に在り。木綿の産地なる眞岡(人口二萬八千)は宇都宮の東南に在り。○産物は麥、大豆、藍、烟草、銅、生糸、織物。

(奥羽七國) 岩代の外は六國共に海に面す。其中に

で磐城、陸前、陸中は東の方、太平洋に面し、親潮の寒流(千島流)に沿へり。羽前、羽後は西の方、日本海に面し、陸奥は太平洋、日本海に沿ひて三面共に海に面す。又奥羽山脉は此等七國の中央を南北に走りて、諸川の分水界となり、其東に阿武隈山脉、北上山脉あり。  
岩代 下野の北、磐城の西に在り、國內山岳多かれども、越後の阿賀川の上流なる只見川、日橋川(ニハシガハ)の流域には平地あり。○猪苗代湖(周回十三里)は日橋川の上に在りて風景よく、且、漁船の便あり。其西北の若松(人口二萬八千)は會津平の中央に位し、松平氏二十三萬石の舊城地にして會津燒、會津塗及蠟を産す。明治元年會津戦争のありし所なり。

福島縣  
磐城の  
岩代、  
大部の

若松城はもと黒川城と云ひしを、蒲生氏郷其故郷(江近)の名を取りて、かく名づけたり。北に磐梯山、吾妻山あり、何れも先年噴火破裂せり。○阿武隈川は東部を北流して磐城の北部を過ぎ海に入る。之に沿ひて東南に須賀川(人口一萬)、郡山あり、其北に二本松、福島あり。福島(人口一萬九千)は福島縣廳の在る所にして吾妻山の東に當り、養蠶盛なり。二本松にも明治元年戦ありけり。産物は生糸、金、雲母、會津塗、會津燒、蠟、信夫摺、馬。

磐城 南は常陸、北は陸前に境し、阿武隈山脉、國の中央を南北に走る。白河は國の西南に在り(人口一萬四千)、徳川幕府の老中たりし松平定信は此地の城主なりけり。此所

其他の  
邑(小名  
濱、平、  
倉、柵)

宮城縣  
陸前、の  
大磐城、  
一磐城、  
名取川、  
岸の紅葉、  
かのうつ  
か錦は底  
むかへし  
くさへし  
くに行

も亦維新の古戰場なり。其少しく西南に白川、關の趾あり、能因法師の歌都をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白川の關は此所を想像して詠みしものなり。三春(遙に猪苗代湖の東に)は名馬の産地にして、東北隅の中村は相馬燒の産地なり。産物は生糸、烟草、絹布、三春駒、相馬燒、石炭。

陸前 磐城の北に在りて西は羽前に界し、東は海に臨む。○仙臺(人口七萬四千)は名取川に沿ひ宮城縣廳の在る所にして、阿武隈川の平原と北上川の平原と(所謂奥の平原)の中心に位し、東山道第一の都會なり、第二師團司令部、第二高等學校等あり。伊達氏三十二萬石の舊城地にして仙臺平、銅器、及名取川の埋木細工を名産とす。東京より瀛車十



二時間の里程なり(東京より名古屋又は直江津へも然り)。○松島は其東北に在り、吾國三景の一にして、松島灣に臨み、數多の島々に生ひ茂れる松の緑は名にし負ふ眺なり。

抑、ことふりにたれど松島は扶桑第一の好風にして、凡、洞庭、西湖を耻かしむ、東南より海を入れて江の中三里、浙江の潮を湛ふ、島々の數を盡して欲つものは天を指し、臥すものは波に匍匐し、あるは二重にかたより三重に疊みて、左に別れ右に列る、負ふあり、抱けるあり、兒孫を愛するが如し。松の緑濃かに枝葉沙風に吹かれて、屈曲おのづから矮めたるが如し。、、、造化の天工いづれの人か筆を揮ひ、詞を盡さむ。

(芭蕉の作、奥の細道)

○鹽竈は松島灣頭に在り、製鹽盛なり。鹽竈と其西の岩切との間に多賀城(大野東人が聖武天皇の御代に築きしもの)の跡あり。○荻濱

其地の名  
邑(涌谷、古川)

港は東の牡鹿半島に在り。金華山は此半島の東南にある小島にして、鹿猿多く、近海には海獸多し。荻濱の西北なる石巻(人口一萬八千)は北上川の口に沿ひ、野蒜港は其西に在り。○産物は仙臺平、埋木細工、諸礦物、水産物(殊に鮪生糸、氣仙の行李)。

陸中 南は陸前、西は羽後に境す。北上川は源を中山峠(陸奥との境)に發し、國道に沿うて國の中央を南流し、盛岡、花巻を経て陸前に入り、石巻に至りて海に注ぐ。川口より一、關の近傍まで汽船の便あり。○盛岡は北上川の東に位し(人口三萬二千)、南部氏の舊城地にして、巖手縣廳あり、紬鐵瓶を産す。阿部貞任の厨川、柵の跡其近傍に在り。○一

金色堂は藤原秀衡の祖父清衡の建立せしもの

其他の名邑(水澤、岩谷堂、遠野、黒澤尻)

關は南にありて、其西北には源義經の討死せりと言ふ衣川館の跡あり。衣川は北上川の支流にして其右岸に在る中尊寺の金色堂は殊に名高し。○平泉の館の跡(藤原泰衡の亡はれたる所)は一關の北に在り。○東南の釜石と其北の宮古、久慈は此國の港にして釜石の近傍には鐵を産す。宮古の東に當りて北へ斗出する閉伊岬は本道の最東に位す。産物は南部の馬牛、生糸を始として、諸礦物、木綿織北上川の鮭、鱒等。

青森縣(陸奥の大部)

北國にては海を湖の水又は沼の意に用ふ

島と云ひ、其内に陸奥灣あり。陸奥灣は東南を野邊地灣と云ひ、西南を青森灣と云ひ、夏泊岬其間に斗出す。○青森(人口二萬七千)は青森灣に沿へる都會にして青森縣廳あり、東京より瀛車二十六時間の里程なり。其西南の弘前(人口三萬二千)は此國第一の都會にして津輕氏十萬石の舊城地なり、漆器を産し、第八師團司令部あり。岩木川其東を流れて十三瀉に注ぐ、其流域は土地肥沃なり。弘前の西なる岩木山は活火山にして津輕富士と云ふ。津輕半島の北端に龍飛岬あり。斗南半島の北部には東に尻矢岬あり、西北に大間岬あり、西南に九艘泊あり、中央の恐山は硫黃を産し、其東南の大湊は良港なり。○鐵道は陸

陸奥の境に矢立  
時、大碓關、大  
路、當通の  
秋田縣の  
羽後、  
陸奥部の  
一部

中より來りて八戸(馬淵川に沿ふ)に至り、野邊地、小湊を過ぎ、青森  
弘前を経て、碓關に至る。○碓關の東に十和田湖(十回)  
あり、相坂川の源なり。十和田湖より野邊地へは山脉連  
り、八甲田山最高し。相坂川の北には小河原沼あり、陸中  
との境に七時雨山あり。産物は漆器、馬、大豆、鮭、昆布、硫  
黄。

羽後 東は陸中に界し、西は日本海に臨む。北に能代  
川中央に御物川あり、南境に最上川の下流あり。○能  
代川の口に在る能代(人口一萬三千)は能代塗の産地にして、其  
港は碓泊に宜し。秋田(人口二萬六千)は御物川の下流に沿ひ(佐  
氏二十萬石)秋田縣廳あり。機業盛にして秋田織、八丈縞を

源義家が  
清原家衡  
武衡を攻  
敗し、柵の  
跡は横手に  
の北に在る  
其他の名  
邑、大館、  
角館、本  
庄、大曲、  
湯澤  
五月雨を  
集めては  
や、最上  
川(芭蕉)  
山形縣  
羽前、  
羽後の  
一部

産し、秋田(高さ七尺)も亦有名なり。其下流に土崎港あり。  
能代と土崎との間に八郎瀉(周回十里)ありて、其西を男鹿半  
島と云ふ。男鹿半島には寒風山(消火)あり、南岸に船川港  
あり。東南の横手(人口二萬)は陸中、黒澤尻への通路に當る。  
○南の烏海山は國中第一の高山なり。西南隅の酒田  
(人口二萬)は最上川の口に在る要港なり(山形縣に屬す)。産物は秋田  
畝織、春慶塗、米、大豆、秋田欸冬、金、銀(内院)、銅(阿)、鉛、生糸等。  
羽前 東は陸前、南は岩代に界す。最上川は國の中  
部及び北境を流れ、其流域は平野にして地味肥沃なり。  
(最上川の稲舟と云ふ語によりても其流域に古より米産の多かりしを知るべし)。○山形(人口三萬)は最上  
川の東に位し、山形縣廳あり。最上川の上流なる南方の

山形の大沼  
には其中  
に數島の  
浮遊する  
あり之を  
浮島と云  
ふ。其他の  
名(塞河  
江、楯岡)

米澤(人口二萬七千)は上杉氏十五萬石の舊城地にして、鷹山侯治憲が苦心經營の治蹟は今猶存し、養蠶盛に行はれ、且、有名なる米澤織を産す。新庄(人口一萬)は國の北部に在り、山形より秋田への通路に當り、綾織を産す。鶴岡(もと庄内と云へり人口二萬)は西部に在りて最上川の支流に臨む。其東南に在る月山カサは羽後の鳥海山と共に姿の美しき山なり。産物は米澤織、生糸、米、大豆、石炭、銅。

(概括)

東山道の中にて、中山道は土地高くして信濃川、木曾川、利根川の三大流を始とし、數多の川流源を其諸山より發し、南北に流れて海に入る。○奥羽七州の中央を南北に走れる奥羽山脉及其西の出羽山脉は火

脈にして、東の阿武隈山脉、北上山脉は通常山脉なり、此等に並行して北上、阿武隈最上、等の諸川あり。阿武隈山脉は阿武隈川の口に起りて、其東を南へ走り、靈山リョウセン前前磐城磐城岩代岩代の境にありて其、八溝山ヤツミヤマ陸陸の界界となり、常陸に入りて加波山、筑波山となる。又北上山脉は馬淵川の口より起りて南へ走り、陸中に於て早池峯山ハヤイケミネとなり、陸前の牡鹿半島を經、金華山に至りて没す。○海岸は東海道と異なりて屈曲少く、隨ひて港灣少し、且、東山道は山地にして寒氣強く、飛驒、信濃及び奥羽地方殊に甚しき中にも、日本海に面する羽前、羽後は冬の風いと寒く、其他の低地は稍温暖なり。○猶、火山脈に就きては北陸道

の終に合せ述べし。

北陸道

北陸道は東山道の北に在りて、西南より東北に亘り、日本海に臨む。之を七國に分ち(但、佐渡は島國なり)、且、四縣に分轄す。○一般に雨雪の多き地にして、雨は殊に中部に多し、而して雪の深さは一丈より二丈に及び、流車の通行を止むるに至る。

福井縣

越前、若狹。

石川縣

加賀、能登。

富山縣

越中。

新潟縣

越後、佐渡。

海岸は岬灣少く且、概砂濱にして風波荒けれども、若狹

其他の名  
邑(高濱)

は海岸の出入多く、能登半島は内に七尾灣、富山灣を抱けり。川は皆東山道の諸國、或は其境より發して北へ流れ日本海に注ぐ。

若狹 南は丹波、近江に境して山脉連り、北は日本海に臨みて岬灣多し。小濱オホハマ は小濱灣に臨み、若狹塗の産地なり。沿海は魚類に富み、鳥賊最多く、若狹鯛殊に有名なり。産物は漆器、魚類、麻、繭、茶。

越前 若狹に近き所に敦賀灣あり。敦賀(人口一萬七千)は北陸第一の要港にして、鐵道近江より來り、東北の福井に至る。其北の金崎は尊良親王及び新田義顯が城を枕に討死せし所なり。○福井(人口四萬三千)は昔北莊と云ひ、柴田勝

家の居城ありし所にして、足羽川に沿ひ、九頭龍川其北を流る、松平氏三十二萬石の舊城地にして、福井縣廳あり。松平春嶽(慶永)侯は此國の大名なりき。東の永平寺は曹洞宗の本山(僧道元の開創)なり。北の藤島社には新田義貞を祀る。○三國(人口一萬)は福井の北に在り、日野川(九頭龍川の下流)に沿ひ、坂井港に臨む。○福井より南に進めば鯖江を経て武生に至る。武生(人口一萬五千)は近江への通路に當り、蚊帳及び鳥子紙を産す。大野は九頭龍川の上に在り、奉書紬羽二重を産す。○産物。海産物には鯖最多く、雲丹殊に有名なり。其他羽二重、奉書紬、奉書紙、鳥子紙等の産あり。

加賀 越前の南に在り、東南に白山聳ゆ。金澤(人口八萬)は北陸第一の都會にして、前田氏百萬石の舊城地なり、石川縣廳第四高等學校、第九師團司令部、兼六公園あり、象眼細工、銅器、陶器、織物を産す。北に河北瀉あり、西北に金石港あり。○金澤の西南の小松(人口三萬)は陶器、木綿の産地なり。小松の西北にありし安宅關の跡は、今は陸を離るゝと一里に及べり。更に其西南に大聖寺(大聖寺)の商地あり。○大聖寺の東南に山中山代の二温泉あり、且山代村には九谷陶器製造所あり、九谷焼の名世に高し。又齋藤實盛が討死せし篠原の古戰場は大聖寺の北に在り。○産物は茶、麻、烟草、九谷焼、絹布、紙、銅器、象眼細工等。

能登 日本海沿岸の最大半島にして、中央に山脉連り、内に七尾灣を抱き、越中との間に富山灣(布施海と)あり、東北に緑剛岬あり。七尾灣は水深くして中央に能登島横はる。七尾(人口一萬)は灣の南岸に在りて繁華なり。近傍の海中に和倉温泉在り。半島の北岸に在る輪島は漆器の産地にして、之を輪島塗と云ふ。○此國は日本海に在る唯一の製鹽國にして、其産額夥しく、漁業も亦盛なり。

越中 西は加賀、能登に界す。加賀との境に在る俱利加羅峠(彌波山)は木曾義仲が平氏を敗り、豊臣秀吉が佐々成政を敗りし所にして、此所に兩國の通路あり。○射水

二川の肥沃な沃地  
域は肥沃な沃地  
の平野に沃地  
して越中に沃地  
米の産地中  
な

魚津にて盛氣樓の  
見ゆると  
あり杉  
立山の  
標黒部川  
を下の  
其他の名  
邑(今石  
動、水見  
滑川)

富山縣  
越中

川(白川の)神通川(宮川の) 飛驒より來り、射水川の下流に高岡(人口三萬)あり、鐵器、漆器を産す。又射水川の口に在る伏木は此國の要港なり。其東に新湊あり。富山(人口八萬)は國の中央に在りて神通川に跨り、富山縣廳在り、昔より賣藥の盛なる所なり。東岩瀬港は神通川の口に在り。魚津は富山の東北に位し、富山灣に臨む、商業、漁業共に盛なり。黒部川は國の東部を流る。○東南の立山は國內第一の高山なれども、東境の蓮華山は更に高し。親不知の險は越後との境に在り、今は新道開かれたり。産物は米、生糸、魚類、藥種。

越後 北陸第一の大國にして、廣き沃野あり、米産豊か

なり、海岸は出入甚少し。高田(人口二萬)は雪の深きと石油の出づるとを以て有名なり。其北の直江津は(人口一萬)要港にして荒川の口に在り、東京を距ると汽車十二時間の里程なり。鐵道は長野より來り直江津を経て海岸に沿ひ、柏崎に至る。○長岡は柏崎の東に當り、信濃川の右に在り、新潟の上流十七里に位し、日々汽船便あり、織物を産す。維新の頃、河合繼之助(備中の傑儒山、田方谷の門人)此地に出で、長岡亂起れり。信濃川は北陸第一の大川にして、信濃より來り、小千谷、長岡、三條を経て新潟に至り、海に入る、舟運灌漑の便甚多し。其東の阿賀川は岩代より來り、福島潟の西を過ぎて海に入る。○新潟は信濃川の口に在

新潟縣  
越後、  
佐渡。

其他の名  
邑(村松、  
龜田、水  
原、村上)

り(人口五萬)開港場なれども、港内泥砂ますく、沈積し、川口遠淺にして大船入る能はず。新潟縣廳此所に在り。其東の新發田(人口一萬一千)には第二師團の分營あり、石油出で商業も盛なり。其西南なる五泉(五ツ)は五泉平、及糸織の産地として名高し。田代の七釜は中魚沼郡(信濃川の流域にして信濃に近し)の田代に在る奇景にして、玄武岩より成る、瀧七段ある故に七釜とは云ふなり、數十丈の其絶壁は厚さ六七寸、長さ三四尺許の石柱が幾百萬となく、堅に重り横に並びてなれるにて、げに自然のものとは思はれずとぞ。越後は、上杉謙信の起りし所にして、其居城は直江津の西南一里なる春日山にありけり。○産物は米、大豆、麻、石油、縮上布、五泉



平、酒、藍綿、鮭等

佐渡 越後の北に在る島國にして中央狭く、且低くして米穀を産す。北方に金北山(山 舊火)あり、其西南の相川(人口一萬五千)には有名の金山あり、且無名異焼を産す。相川の近傍には順徳上皇が假の官居の跡あり、眞野に其陵あり。

啼けば聞く、きけば都の戀しきに此里過ぎよ山時鳥

(順徳上皇)

川原田  
眞野  
灣に臨む

東岸の夷町は夷港に臨む、西南に小木港あり。○日野中納言資朝の子、阿新丸が父を尋ねて來りしも、此國なり、僧文覺も、日蓮も此地に流されたり。産物は金、銀、米穀、無





名異焼、鰯、鮑、乾魚等。

(東海道、東山道、北陸道の諸山脉)

其一、火山脉。之を大別して七とす、其中、三脉は東山道の東北部(陸奥、羽後)より起り、西南へ走りて富士火山脉に合す。

(一) 恐山火山脉

(二) 岩木火山脉

(三) 寒風火山脉

即是なり、此外に

(四) 富士火山脉

(五) 立山火山脉

(六) 能登火山脉

(七) 白山火山脉あり。

(一) 恐山火山脉は千島火山脉が北海道を経て津軽海峡を渡り、陸奥の斗南半島に起り、奥羽山脉となりて

日本の地面の五分は火山岩よりなる

奥羽の境を南走し、下野、上野に至りて富士火山脈に會合せるなり。此火山脈は斗南半島の恐山、焼山を始として八甲田山、十和田湖、陸中の七時雨山、岩手山、駒岳、酢川岳(二山共に陸中羽後の境)、藏王岳を聳えしめ、吾妻山、彙安達太郎山、磐梯山(代岩)を起し、下野に入りて那須岳、雞頂山、日光山、彙男体山、白根山、其中に在りとなり、上野に入りて赤城山、榛名山となる。(之を那須火山脈とも云ふ)

(二)岩木火山脈 陸奥の西南部なる岩木山に起り、日本海に沿ひて南へ走り、鳥海山(羽後)、月山(羽前)、朝日岳(羽前)、飯豊山(羽前、岩越後)、御神樂山(岩越後)、苗場山(越後の南部)、白根山、吾妻山(信濃)、淺間山となり、富士火山脈に連る。

(三)寒風火山脈 羽後の男鹿半島の寒風山に起りて新山、本山となり、遙に海中の飛島、粟生島を経て越後の彌彦山、米山、妙高山、焼山となり、信濃にて高妻山、戸隠山となる。(之を彌彦火山脈とも云ふ)

(四)富士火山脈 遠く太平洋中に起り、小笠原島を経て伊豆の七島となり、大島に三原山を聳えしめ、天城山となり、猶北に走りて箱根山、彙を造り、且、東北より來る火山脈と衝突して富士山となり、八岳(甲斐の北境)、立科山(信濃)、妙義山(上野)となる。

(五)立山火山脈 信濃越中の境に起り、太連華山、小連華山、鹿島鎗岳となり、越中の立山となり、信濃、飛驒の



日山を起し御前崎に至る。(五)木曾山脉、鳥居峠に起り、赤石山脉に並行して天龍川、木曾川の間を走り、美濃平原に至る。其中に駒岳(七八)、惠那山(七三)あり。

(六)飛驒山脉、越後、信濃及び越中、飛驒、美濃の境を走り、多くは火山脈なり。北は親不知、險より始まり、雪倉山、朝日岳、蓮華山となり、信濃、越中の境に於いて鐘岳、針木峠、薬師岳となり、信濃、飛驒の境を南に走りて乗鞍岳、御岳となる。○其他、北上山脉、阿武隈山脉は前に述べたれば茲には省きつ。

### 山陰道

丹波 京都五郡 西京二郡 南都二郡 丹波の府

山陰道は中國の北部を占む、北は日本海に臨み、東は若狭、山城に界し、南と西とは中國山脉によりて山陽道に界し、丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐の八國よりなる。其中にて丹波を除く外は皆、日本海に臨む、但し隱岐のみは島國なり。此等諸國の政治上の區畫左の如し。

府	縣	國
京都府	兵庫縣	鳥取縣
<small>(山城、丹波、丹波の一部)</small>	<small>(攝津の一部、丹波の一部、但馬、播磨、淡路)</small>	<small>(因幡、伯耆)</small>
島根縣	<small>(印は山陰道以外の國なり)</small>	
<small>(出雲、石見、隱岐)</small>		

丹波 東は山城、北は若狭、丹後に界し、北境に三箇の三國山(若狭、山城との界一、若狭、丹後との界二、丹後、但馬との界三)ありて、山岳に圍まる。東南

西北隅、丹後、山境にあり

の龜岡は京都へ六里を距つもと龜山と言ひて、明智光秀の城を築きし所なり。保津川は龜岡の北を流れ大堰川となりて山城に入る(桂川の上流)。和知川は其南の土師川と福知山にて會し、福知川又は音無瀬川となりて大江山の東を流れ、丹後に入りて由良川となり、久下川は播磨に入りて加古川となる。此國は徳川時代に七藩に分れし所にして今も大なる市街なく、龜岡、園部、福知山、篠山、柏原を重ねる名邑とす。産物は砥石、生糸、烟草、蜂蜜、栗、柿、薪、炭等なり。

丹後 丹波の北に在り。西部より東北へ向ひて半島斗出し、其北端を經、岬と云ふ。此半島は其東南の成生岬

君問は、見ずば、知らじ、答へ、まじ、この、どの、橋、た、の、立、光、廣、島

及、博奕岬と相對して、與謝灣をなし、内に舞鶴、宮津の二港あり。舞鶴(昔の田邊にして細川幽齋が籠城せし所)は軍港にして第四海軍鎮守府の設けらるべき地なり。西北六里に宮津(人口一萬)あり。其北に在る天橋立は與謝海の中央に擴はり、砂州海中に斗出し、(長さ二十七町四、十間幅三十七町四)松の緑其上に生ひ、茂りて海人小舟の帆影見え、つ、隠れ、つ、行きかふあり、舟より之を見れば、松も天も水中に映じて、天に橋あるが如く、其景色日本三景の一に數へらる。川は由良川最大なり、丹波より來り、宮津、舞鶴の間を流れて由良港に入る。産物は牛、繭等にして、縮緬、紬は其名高し、水産物には乾魚、海藻あり。



但馬は  
兵庫縣

但馬 丹波の西、播磨の北に在りて西は因幡に界す。國內山多くして平地は僅に五分一なり。南に生野、銀山あり、文久三年平野國臣(前筑)が大君にさゝげまつりし吾命今こそ捨つる時は來にけれと歌ひて勤王の兵を擧げし所なり。朝來川は生野の西より發して北流す、此國第一の大川にして鮎は其名産なり。生野の北に在る出石は澤庵和尚の生地にして陶器を産す。更に北に至れば朝來川の西に豊岡あり、柳行李の産地なり。其北一里餘の所に玄武洞と云ふあり、百千の石柱を縦横に積み重ねたるが如し、洞の長さ四十間、左中右の三房に分れて間口十二間若くは十三間あり。更に其北一里餘に湯島

玄武岩は  
火山の噴  
出物なり

因幡、  
伯耆

温泉あり。道路は丹波の福知山より來りて西北に至り因幡に入るものと、豊岡より生野を経て播磨の姫路に至るものとあり。産物は金、銀、牛、陶器、柳行李、生糸、麻、  
因幡 但馬の西、伯耆の東に在り、平地少し。鳥取(八口)  
千八は加露川(千代)の東に位し、鳥取縣廳の所在地なり。其西に湖山池(周圍三)あり、東北隅に岩井、温泉あり。産物は藍、白珊瑚、牛等。  
伯耆 美作、備中の北に在りて西は出雲に界す。東部に天神川あり、倉吉は其上流に沿ひて、木綿及飛白を産す。其西の船上山(今)は船上山(今)と云ふは名和長年が勤王の兵を擧げて後醍醐天皇を迎へ奉りし所なり。○大

其他の名  
邑(八橋、  
淀江)  
中國には  
牧牛盛に  
道して山陰  
道殊に伯  
耆出雲の  
産良し

山は中國第一の高山にして(高さ五八七七尺)日野川其西を流る、其麓は所謂大山の原にして毎年此所に牛馬の市を開く。南境に蛭山あり。日野川は此國の大川なり、源を西南に發し、美保灣に注ぐ。其川口の西なる夜見濱は長さ四里、幅一里にして海中に斗出し、北端に境の名邑あり、出雲の島根半島と相對して其間は即、中江海峽なり。米子(人口一萬六千)は夜見濱の脚南に位す、近傍の平地米産豊かなるによりて米郷と云ひしが、やがて米子となりたりとかや、出雲の松江との間に交通繁し。○産物は木綿、倉吉の飛白、藍、烟草、牛馬、鐵等。



出雲大社の圖

斗出し、伯耆の夜見濱と相對して内に宍道湖、中海を包めり。宍道湖は(周圍十)西に、其名産なり、東は一條の川によりて中海に通ず、昔は此間廣く相續きて意宇、海と呼ばれしが、次第に埋れて今の如くにぞなりにける。中海は(周圍十)中國第一の湖水にして内に二島あり、東部の水は鹹味を帶ぶ、貝類、鰻、鰈、章魚、鯖等の産物あり。島根半島

島根縣  
出雲、  
石見、  
隱岐。

廣瀬(安  
來)の西南  
の東南に  
尼子氏の  
富田城の  
跡あり

の十六島鼻には名高き海苔を産す。其東端、地藏岬に三保關あり、港内水深くして碇泊に宜しけれども、土地狭きが故に其繁榮を對岸の境に奪はる。○松江(人口三萬四千)は宍道湖の東岸に沿ひ、山陰道第一の都會にして島根縣廳あり、伯耆の米子との間に交通繁く、湖上に小汽船の便あり。半島の西端に杵築あり、杵築社、即、大社と云ふには大國主命(大己貴命)を祀れり。其南に神門川あり、神門川と簸川との間の平野は所謂神門十萬石の地なり。杵築の東南に今市あり、東部に安來あり。石見との界に三瓶山(消火)あり。産物は米、麥、麻、牛、馬、砂鐵、海苔、鯛、鱸、陶器(雲燒)等。

石見 長門の東北に在りて南は周防、安藝に境す。江川は安藝の吉田川、備後の三次川の下流にして西北へ流れて海に入る。西部に高津川あり。○濱田(人口一萬)は海岸の中央に位して濱田浦に臨み、商業稍盛なり、西南隅の津和野も亦商業地なり。石州半紙國の西部より出で其他麻、牛、銀、砂鐵(江)等の産物あり。  
隱岐 出雲の北に在り、知夫里島、中島、西島、島後の四島よりなる、其中にて初の三島は小さくして出雲に近し、之を島前と云ふ。西島には後醍醐天皇の行在所なりし黒木の御所の跡あり。中島は後鳥羽上皇が承久の御企敗れて其所に移され、憂き年月を過して世を終らせ給ひ

し所にして御歌

吾こそは新島守よ隠岐の海の荒き波風心して吹け。  
故郷を別路に生ふる葛の葉の秋はくれども返るよぞ  
なき。

此等は此折柄に作らせ給ひしなり而して陵も此所に在り。又鳥後の南岸に西郷港あり。○此國は土地肥沃ならざれども水産に富み、鯛、最名高く、其外、鯖、干鰯、和布、荒布等の水産多し。

(中國山脉) 近江の比良岳、山城の叡山より來り愛宕山を経て山陰、山陽の界を西に走り、四個の三國山、鬼城山(石防、石の界)となり、徳佐峯(石長、石の界)となり。周防、長門の

界を経て終る。これ其主軸にして支脈南北に分岐す而して久下川、江川の外は、諸川皆、此主軸を分水界として南北に流るゝなり。○中國の火山脈は中國山脉に並行して其北に在り。即、北陸道の白山火山脈が西に走り、若狭、丹後の境に於て青葉山となり、猶西に延びたるにて、大江山(兩丹の界)、船上山、大山(伯)、三瓶山(雲石)、青野山(石長)は其著しきものなり。○此の如く中國の火山脈は山陰道を通過せる故、温泉も山陰道に多くして山陽道には甚稀なり。

山陽道

山陽道は中國の南部を占め、東は丹波攝津に界し、南は瀬戸内海を隔て、四國九州に對し、西端(長門)は日本海、響灘に面す。地勢平坦なる所多く、氣候中和にして地味肥え、交通の便もよし。山陽鐵道其南部を東西に通過す。本道を分ちて八國とす、其政治區劃左の如し。

兵庫縣

播磨

岡山縣

美作、備前、備中

廣島縣

備後、安藝

山口縣

周防、長門

播磨 山陽道の東部に位し、平地多くして、且肥沃なり、北は丹波、但馬、因幡に界し、南は播磨灘に臨みて淡路島及讃岐と相對す。東端の舞子には舞子公園あり、老松數多立ち並びて其幹其枝の趣、一もめでたからざるなり。明

石(人口二萬一千)は明石海峡を隔て、淡路の岩屋に對す、ほのぼのと明石浦の朝景色は世々に變らぬ眺にて雅客の來り遊ぶ、甚多し。此所に人醫社あり、又明石縮を産す。國內大川多くして、皆南に流る、加古川、市川、青山川、揖保川、千草川(有年川)其重なるものなり。中にも加古川は最大くして源を丹波に發し、其東に加古川の名邑あり、川口に近く高砂あり。○姫路(人口三萬一千)國の中央に位し、市川其東を流る、古より革細工を以て名高し、又其城は豊臣秀吉の築きたる名城にして、此所に第十師團司令部あり、西北の書寫山は甚高からざれども景色よく、且名刹あり。揖保川の西の龍野は醬油の産地なり。有年川の西なる



井川(川東大)は津山川の下流なり。其外港には東に牛窓西に下津井あり。産物伊部の陶器、長船の刀、古より有名なりしも今は精巧ならずとぞ、其他、醬油、花筵、鹽、紡績糸等。

**美作** 北は因幡、伯耆、東は播磨に境す。中國にて全く海を離れたる國は此國と丹波とのみなり。四面に山ありて土地高く、備前の二大川源を此國に發す。即、旭川は高田川の下流にして、高田川の上には神庭瀧(高さ三十六丈、幅八間)あり。吉井川は津山川の下流にして、津山川の上には岩井瀧(高さ百八十丈、幅四間)あり。津山(人口一萬一千)は國の中部に在り、足袋は其名産にして、近傍には藍、烟草を産す。院の庄は兒島、高德が櫻樹を削りて君を思ふ眞心を十字の句に表は

其他の名  
邑(倉敷、久世)

しゝ所なり。京都の吉水にて浄土宗を開きし法然上人(源空)は此國より出でたり。産物は烟草、綿、雲齋織、足袋、牛、茶等。

**備中** 北は伯耆、東は美作、備前に界し、南は水島洋に臨む。高梁は國の中央に在り、もと松山藩と稱し、板倉氏の舊城地にして、山田方谷が藩政の改革に其學識の一斑を應用せし所なり。高梁川(下流を川邊とも云ふ)其西を流る。それより下流に至れば川の東西に倉敷、玉島あり。玉島は水島洋の灣頭に在る港なり。高松は國の東南、備前に近き所に在り、豊臣秀吉が清水宗治を水攻めにせしによりて名高し。又備前との界に在る吉備津神社は吉備津彦(四道)

行在所た  
りし高島  
は備前に  
在りとの  
説もあり

將軍の一人を祀れり其祠官より僧榮西藤井高尙出で僧雪舟も此國より出でたり。○笠岡は國の西南にありて海陸の便よし。其南に神島高島あり高島は神武天皇東征の時行在所のありし地なり。産物は烟草綿藍牛銅砂鐵花筵麥稿細工等。

備後 昔の吉備國の最西に位し東は備中西は安藝に界す。○福山(人口一萬六千)は國の東部に位し線綿の産地にして蘆田川其西を流れ海水深く灣入して海陸の便あり。其西南端の鞆津は船の出入多く且保命酒の名産地なり延元元年足利尊氏が九州の兵を率ゐて京師に攻上りし時弟直義に陸軍を統べさせ少貳頼尙を先鋒とし

て上陸せしめしは此所なり。其西北なる尾道(人口二萬二千)は海陸の便を占め南に向島因島等を控へ良港にして商業の盛なると此國第一なり。其西の糸崎も亦良港なり。三原は小早川隆景の城居せし地にして海に臨み其近傍に烟草を産す。三次は國の西北に位し三次川及安藝の吉田川などの會合點にして石見の江川の上流なり。三次の遙に東なる御神山は帝釋川の源にして此川の上流には奇巖水に刻み出されたる帝釋の鬼橋(幅七間厚五間長七間許なり)及賽河原等の奇觀あり。産物は烟草綿麻藍砂鐵鹽鯛章魚疊表保命酒等にして備後表鞆の保命酒殊に有名なり。



廣島縣  
備後、  
安藝、

安藝 北は石見、東は備後に界す。太田川其中央を流  
れ、廣島を過ぎて蠣の名所、廣島灣に入る、其川口の宇品  
港は神戸及び馬關との間に汽船の往來甚繁し。○廣  
島(人口十萬七千)は宇品を距ると一里、中國第一の都會にして淺  
野氏四十二萬石の舊城地なり、廣島縣廳及び第五師團司  
令部あり。其東北に在る吉田は吉田川に沿ひ、毛利元就  
の城居せし地なり。江田島は廣島の南に位し、能美島の  
一部にして海軍兵學校の在る所なり。其對岸なる吳港  
は軍港にして第二海軍鎮守府を置く、其南の倉橋島との  
間は平清盛の開きたる音頭瀬戸なり。○嚴島は江田  
島の西に在り、(廣島の間、三里二十町)市杵島姫(崇徳天皇の御女)等を祀れる

が故に又宮島といふ、日本三景の一なり。その社は清盛  
の造營せしものにして、潮満つれば楠の鳥居半ば水に浸  
され、殿廊も水に浮べるが如く見ゆ。安藝の宮島回はれ  
は七里、七里七浦七夷(ミヤ)の俚語は島の有様を知るに便なり。  
其塔岡は毛利元就が陶晴賢を亡ぼし、所なり。此あ  
たりより備後の因島(尾道の南)又は遙に其東なる讃岐の小豆  
島に至るまで無數の小島内海に滿ち並びて、風景甚美と  
く、波靜かなる朝ぼらけ、又は夕燒の空の其趣は、筆に述ぶ  
るもなかく、のまにころ。頼山陽は此國の人なり。産  
物は山繭、紬、烟草、藍、線、綿、砂鐵、蚊帳、傘、麻、疊、牡蠣、鯛、章魚等。  
周防 北及び西は石見、長門に界し、南は海に面す、一半

山口縣  
周防、  
長門。

島東部に斗出して其西を周防灘と云ふ、海岸屈曲繁く海上小島多し。山田(人口一萬七千)は西部にあり、山口縣廳、山口高等學校の所在地にして昔大内氏の時めきし所なり。三山尻(人口一萬二千)は山口の南五里に在り、漁船の往來繁し。其少しく西南に在る中關は東南端の室津の對岸なる長島の上、關及長門の下、關と共に防長の三關と稱せられたり。徳山(人口一萬二千)は山口と室津との中央に位す、海岸は之より東南へ延びて室津港に至り、柳井津半島となる、其東の大島は、縞木綿の産地にして對岸に柳井津あり。川の重なるものは東に岩國川、西に佐波川あり、岩國川には有名かる錦帶橋(長さ百二十間)を架す。川口の岩國は岩國縮

親を思ふ  
心にまよ  
る親心今  
日の心と  
づれ何と  
さくらん  
(松蔭)

の産地なり。産物は烟草、紙、茶、鹽、蜂蜜、縮、縞木綿種々の海産物、殊に鹽等なり。

長門 東は連山によりて石見、周防に界し、他の三面は海に臨みて自ら半島をなし、西に響灘あり。川の南流するものには厚東川、木屋川あり、北流するものには阿武川あり。阿武川の右にある萩(人口一萬八千)は毛利氏、三十六萬九千石の舊城地にして、維新前後其藩臣に吉田松蔭、高杉晋作、木戸孝允等出でたり、明治九年に前原一誠兵を擧げて所謂萩の亂を起し、も此所なり。○此國は既に川の方向によりて知らるゝ如く、中央高くして山岳多く、南北漸低し、又西と北とに小島多し。國の西南端は赤間、關海峽

(戸に早瀬)を隔て、豊前と相對し、其狹き所僅に八町なり。赤間關(人口三萬七千)は下關又は馬關とも云ひ良好なる硯材の産地にして豊前の門司と相對し市街は海に臨む。馬關より其東豊浦まで一里の間に源平の古戰場壇浦あり、寄せては返すあだ波も今猶世の人に向ひて驕るもの久しからざる理をや語るらん。産物は種々の海産物、鹿子絞、せめんど、硯材。

### 北海道

北海道は北の一部、畿内に界し、北の大部は瀬戸内海を隔て、山陽道に對す、而して南は太平洋に臨み、西は豊後

灘、及佐賀、關海峽によりて九州に對す。之を別て紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐の六國とす。國境には皆山岳聳え、内地にも大なる平野なし。紀伊、淡路の外の四ヶ國は相連りて一大島をなし、特に之を四國と稱す。本道の政治區畫は下の如し。

和歌山縣紀伊の大部

兵庫縣淡路

徳島縣阿波

香川縣讃岐

紀伊 北海道の中にて只此國のみは本土に連りて畿内の南に位し、且伊勢に界し、南は太平洋に臨み、西は紀伊海峽によりて阿波に對し、由良海峽によりて淡路に對

徳川三家  
の祖  
義直  
頼宣  
頼房  
頼房  
(水戸)

紀伊  
東の二部  
は三重  
和歌山  
大和  
歌山縣

和歌浦の  
東なる名  
草山の  
程に紀  
井寺あり

す。○田倉岬は西北にありて由良海峡に斗出し淡路の生石岬と相對し其間に友島ありこれ大坂灣の入口なり。紀川は吉野川(和)の下流にして西流し紀伊海峡に入る。○和歌山(人口五萬七千)は紀川の南岸に位し風光明媚なる和歌浦に臨む。徳川三家の一なる紀州家五十五萬石の舊城地にして和歌山縣廳あり綿子ルの製造盛なり。其南の黒江には有名なる漆器を産す。有田川は其南を流れ沿岸の地に蜜柑の産額夥し。南に湯淺あり其西南の比井崎は遙に阿波の蒲生田崎に對し紀伊海峡の口をなす。○高野山は紀川の上一里大和に近き所に在り山上の金剛峯寺は弘法大師之を開けり。○田邊灣は國の

幅十八  
間と傳  
ふれども  
實は三間  
許なりと  
ぞ大なる  
りも大なる  
るも大なる  
國に數多  
あり

西南に在り田邊之に沿ひ瀬戸岬其南に斗出す。潮岬は國の南端に在り其近海を紀州沖と云ひ東に大島あり猶其東を熊野洋と云ふ。○熊野川は大和の十津川の下流にして紀州灘に注ぐ上流に熊野社あり神武天皇東征の時には此川に沿ひて大和に入り給ひしなり此川より東は三重縣に屬す。新宮(人口一萬四千)は熊野川の西岸に在り其西の那智山に在る那智瀑布は昔吾國第一と云はれし大瀑布なり(高さ六十餘丈)紀州沖より遙に之を見るを得其水流れて那智川となるなり。○熊野川の上流なる北山川に瀨八町の佳景(奇巖)あり。○産物は蜜柑綿子ル蠟燭材木漆器綿花茶甘藷藍牛鯨鯖鱈等。

昔大炊王  
淳仁天皇  
此國に配  
流せられた  
を天皇に  
奉るに始  
まる時

淡路 東は大坂灣に沿ひ、南は紀伊海峽、西北は播磨灘に臨める島國にして東北の方漸狹し、國內山地多けれども地味肥沃にして穀物に適し、且水産物も豊かなり。北端の岩屋は明石海峽を隔て、明石舞子に對す。東岸に洲本、由良の二港あり、由良の東南なる生石岬は紀伊の田倉岬に對し、其間に由良海峽あり。西南の福良港は阿波の撫養に對し、其間に鳴門海峽あり。産物、伊賀野焼は此國の名産にして其外、米、麥、紙、生糸、綿織等。

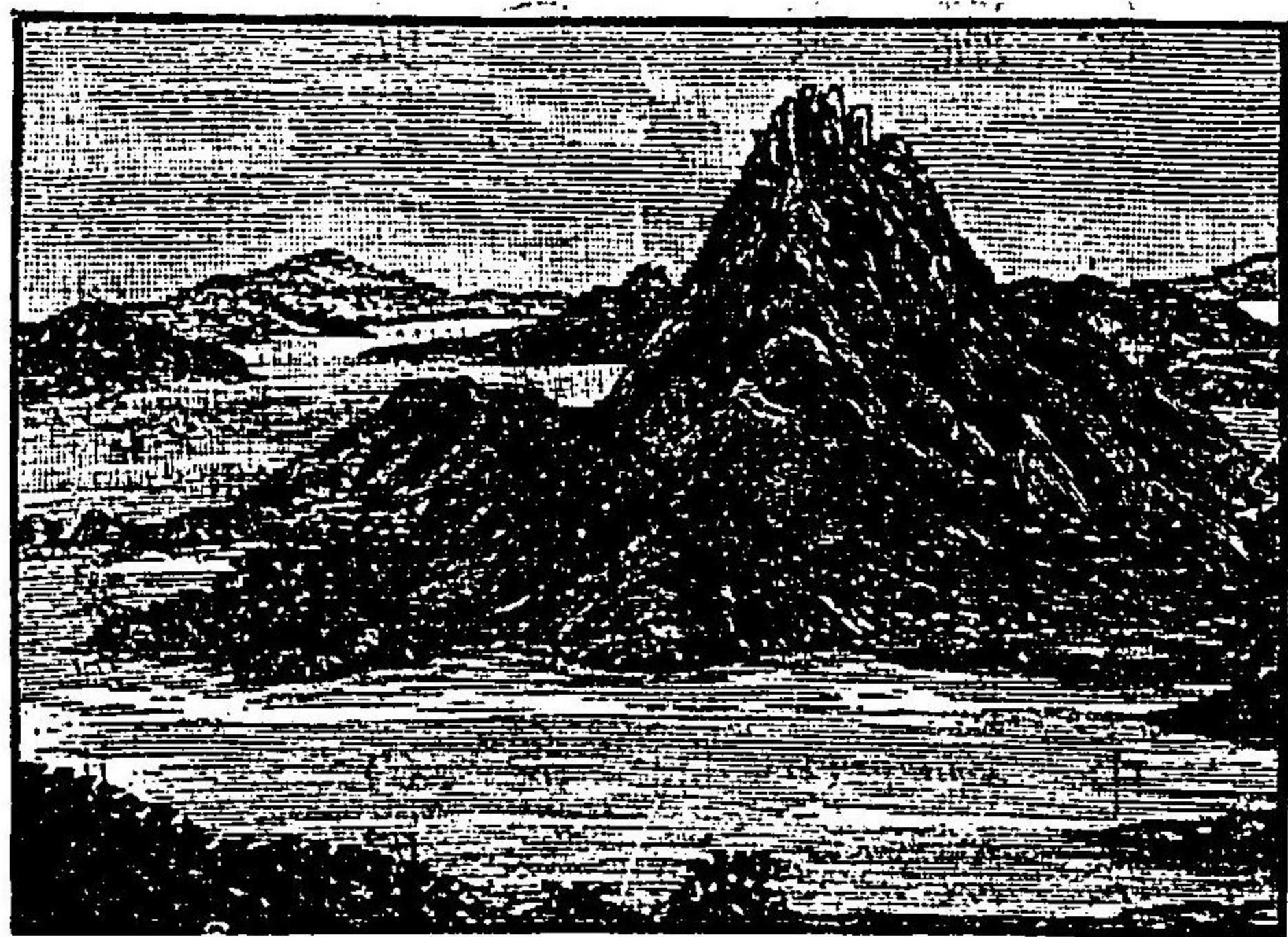
阿波 北は讃岐に界し、東は鳴門海峽、紀伊海峽に臨み、東南は太平洋に沿ひ、西南は土佐、西の一部は伊豫に界す。吉野川は源を土佐に發じ、國の西部に於て、伊豫より來

世の中を  
渡り知る  
阿波の知  
る門に波  
鳴門に波  
風はなし  
兼好法師

る一流と相會し、讃岐との國界に並行して東へ流る、これ即四國三郎にして、運漕灌漑の便多く、四國第一の大河なり。沿岸の地には盛に藍を作り、其産額吾國に比なし。上流に沿へる池田の近傍には煙草を産す。其下流の南岸にある徳島(人口六萬一千)は四國にて最盛なる都會にして、蜂須賀氏二十五萬餘石の舊城地なり、徳島縣廳此所に在り、運送の便よく、商業甚盛なり。南に勝浦川、那賀川あり。東南端の蒲生田岬は紀伊の比井岬と相對し、紀伊海峽の口をなせり。撫養(人口七千七百)は國の東北端に在りて、淡路と相對し、其間の鳴門海峽には世に所謂阿波の鳴門あり、潮の満干の起る時、水準の差八九尺にもなりて、海峽は

さながら瀧の如く、激浪相闘ひつゝ兩岸の岩礁を襲ひて怒號の聲は百雷の響をなし、大渦小渦數知れず所々に廻轉して、中には其直徑一町に及ぶあり。西南の劍山は此國第一の高山なり。産物は藍烟草、砂糖、阿波縮、齋田鹽等なり。

讃岐 四國の中にて最小き國なれども最平野に富む。南は阿波に界し、西南は伊豫に界し、其他は海に臨む。南境に山脈あり、北に至るに隨ひて土地漸低し、故に川は概北に流る、而して大なるものなし。近海に島嶼多く、海岸に屈曲多し。西北に斗出する三崎は伊豫灣の東端を扼し、其東の多度津は國中第一の良港なり。是より東



五 劍 山 の 圖

に進めば普通寺に第十一師團司令部あり。丸龜(人口一萬八千)に其分營あり。丸龜の南の象頭山には琴平神社ありて大己貴命を祀れり。多度津丸龜の北に鹽飽諸島ありて其中、廣島本島最大なり。○丸龜の東に坂出(二萬)あり。乃生岬は備前の兒島半島と相對せり。猶其東南に入込みたる高松(人口三萬四千)は香川縣廳の在る所にして南に栗林公園あり、東北に屋島の古

空海の生  
地は普通  
寺なりと  
もふ

其他の名  
邑(志度  
観音寺)

戰場、及五劍山あり。五劍山は五峰並ひ聳えしが、今は其  
一峯を缺く。更に其東北の小豆島は此國の最大島にし  
て醤油の産地として名高く、且寒霞溪(神懸)の勝地あり。○  
弘法大師(海空)は此國の屏風浦(多度津の近傍)に生れき。産物は砂糖  
(諸國に秀つ)綿藍醬油、保多織。  
伊豫 東は讃岐阿波、南は土佐に界し其他は海に面す。  
東北は伊豫灣によりて備後洋に連り、西北に燧灘、硫黄  
灘あり、西に佐賀關海峽、豊後灘あり、近海に島嶼多し。○  
松山(人口三萬三千)は國の中央平 内に在り、愛媛縣廳の所在地に  
して松山縞を産す。松山城は加藤嘉明の築きしもの  
にして熊本城と並べ稱せられたり。道後の温泉は其東北

宇和島の  
西なる日  
振は藤  
原は藤  
原純友  
の所  
なり  
なり  
なり

一里に在りて古より有名なり。近傍に高繩山(山火)あり、  
故に其東北に斗出せる半島を高繩半島と云ふ。東岸  
に今治あり。又松山の西北に三津濱の港あり。○佐  
田岬は遠く西に斗出し、佐賀關海峽を隔て、豊後の地藏  
岬に對す、北に硫黄灘あり。其東北を燧灘と云ひ、重信  
川、肱川之に注ぐ。○佐田岬の南に當り、豊後灘に面して  
八幡濱灣、宇和島灣あり。宇和島灣頭の宇和島(人口一萬三千)は  
伊達氏の舊城地にして西岸の要港なり、織物、及紙を産す。  
○石槌山は松山の東南に當り、土佐の界にあり、四國の  
最高山にして、且消火山あり。別子の銅山は國の東部に  
在り、産額の多きを足尾に亞ぐ。又近傍の市川は有名な

るアンチモニーの産地なり。時宗の開祖、遊行上人は此國よりぞ出でし。産物は銅、アンチモニー、伊豫絣、松山縞紙、木蠟。

其他の名  
邑(川之  
江、小松  
西條、八  
幡濱)

土佐四國中の大國なり、阿波、伊豫の南に位す。南は地形灣曲して東に室戸岬あり、西に蹉跎岬あり、其間を土佐灣と云ふ。これ天武天皇白鳳十三年の地震に陥りて海となりし所にして、鯨、鯉、珊瑚等の水産多し。○内地は北に山岳聳えて概南に傾斜せるが故に川は皆南へ流るれども、只吉野川のみは東北へ流れて阿波に入れり。南へ流るゝ川の大なるは渡川(四萬十川)、仁淀川、物部川なり。氣候、北部は寒冷なれども最南部には榕、杪羅等の

熱帯植物を産し、冬も雪を見ず。高知(人口三萬六千)は浦戸港の西北に在りて鏡川に沿ひ、山内氏二十四萬石の舊城地にして高知縣廳あり。須崎は高知の西十里にありて良港に臨む。中村は渡川の東にあり、赤岡は物部川の東に在りて、共に名邑なり。又國の西端、伊豫に近き所に宿毛(良繼)灣あり、灣頭の名邑を宿毛と云ふ。此國には野中兼山(良繼)の殖産水利の偉功、今猶存し、民其恩澤に潤ふと少からず。産物は紙の産額最多くして、價額の大なると日本第一なり、其外、鯉節、珊瑚、樟腦、茶等あり。

(四國山脉)は九州山脉が佐賀、關(豊後)に至りて海に没し、伊豫に渡りて再び顯れたるを起點として、土佐の北境を



東へ走れるものなり。**鬼城岳**(宇和島、の近傍)**石槌山**(山、舊火)**矢筈山****瓶森山****白髮山**(皆伊豫土、佐の界)其中に在り。それより一脈は**雲邊寺山**となりて讃岐阿波の界を東へ走り、淡路を経て紀伊の北境に至る。又一脈は土佐阿波の境を過ぎ**劍山**となり、東南へ向ひて海岸に至る。○(紀伊山脈)は和歌山の南より東北へ走り**高野山**となり、大和の南境に於て**安堵峯**となり、大和に入りて**吉野山**、**國見山**、**大臺原山**となる。○火山脈も亦九州火山脈の東へ延長せるものにして、三津濱の近傍興居島に於て伊豫、小富士となり、其東の**高繩山**を過ぎて南に進み、四國山脈と相會して**石槌山**の高峰をなし、讃岐に至りて**飯野**

**山**(九龍の東南に在り、讃岐富士と云ふ)**象頭山**となれり。

西海道

西海道は九州、壹岐、對馬、琉球諸島の總稱なり、其中九州最廣し。九州とは即、筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の九州よりなれる一大島にして、北に下關海峡、響灘、玄界洋あり、東北に周防灘あり、東は佐賀、關海峡、豊後洋によりて**四國**に對し、南は渺茫たる太平洋にして西は**東海**(支那)に面す。西北は朝鮮海峡を隔て、朝鮮の東南端に對し、其間に壹岐、對馬の二島國あり。九州の西南より吾國の新領地、臺灣に至るまで、斷えみ、續きみ、鏈をはへ

たるが如く並べる島々は、大隅の屬島及琉球諸島にぞある。本道の政治區劃は左の如し。

鹿兒島縣	大隅、薩摩。	冲繩縣	琉球。
長崎縣	肥前的一部、壹岐、對馬。	熊本縣	肥後。
福岡縣	筑前、筑後、豐前の一部。	大分縣	豐前の一部、豐後。
		宮崎縣	日向。
		佐賀縣	肥前の大部。

筑前 北は響洋、玄界洋に臨み、東は豊前に界す。地形東南に狭く、西北に廣く、内地は平坦肥沃にして、海岸出入多く、港灣に富み、且、島嶼多し。産物豊かに、商業盛なるべき要素備はれり。遠賀川は源を英彦山(豊前豊後との境)に發

仲哀天皇  
の行在所  
ありし香  
の推し多  
在り北に

し北へ流れて蘆屋港に注ぐ。東の若松港は石炭の積出地なり。又西に斗出する鐘岬(シマ)は響灘と玄界洋との間に在り。其西南に在る福岡灣は、北に志賀島半島を控へ、其口に殘島あり、昔元兵の寇せし所なり。灣内淺く西に志摩郡半島あり。福岡は福岡灣に臨み黒田氏五十萬石の舊城地にして福岡縣廳あり、其東隣の博多と共に福岡市(人口六萬)をなす、博多は商業盛にして博多織の名産地なり。大宰府は其東南に在り、古より歴史上に其名高く、且、菅原道眞の貶せられし地なり。志摩郡半島の西端なる芥屋浦に玄武岩の奇觀あり、大門崎の巖洞より肥前の呼子浦に至る迄、相並び相重なる玄武岩の絶

其他の名  
邑(飯塚)



芥原浦立武岩の圖

たり。産物は麥、米、烟草、藍、石炭、鯛、博多織、生蠟等。

壁に立界洋の荒波、白馬の荒るゝが如く打かゝりて岩を崩し、崩されし岩は落ちて碎けて波のまにまに又打寄せ來り、絶壁に洞を穿ちて五角六角の稜々たる岩柱、上にも下にも、右にも左にも數限りなく立並び、げにも天工の奇觀なり、此奇觀は肥前に至りて神崎カサキの七釜シツクとなる。○維新前此國より平野國臣出で

筑後 北は筑前、肥前に境し、東は豊後に境し、西は筑紫海に面す。九州の中にていと小き國なれど北境を流るゝ筑後川は九州第一の大川にして筑紫二郎と稱せられ、久留米を過ぎて筑紫海に注ぐ、川口に若津港あり。○久留米(人口二萬八千)は有馬氏の舊城地にして福岡を距ると凡十二里、商業盛にして綿織及び飛白を名産とす、高山正之(上人)の自殺せし所なり。筑後川に沿へる地は肥沃の廣野にして五穀及菜種、大豆、藍、甘蔗の産多し。○矢部川は國の中央を流れて灌漑の便よし、下流の柳河は立花氏の舊城地にして久留米に亞ぐ都會なり。其南の三池は石炭の産地として名高く、其石炭は大牟田港より

積出さる。産物は米、麥、茶、藍紙、種油、久留米、緋、石炭、生蠟。  
豊前 北は下關海峡、東は周防灘に臨み、南は豊後西は筑前に界す。國の大部は福岡縣に屬し、東南の二郡は大分縣に屬す。

(福岡縣の部)東北端の門司(人口二萬三千六百)は九州鐵道の起點にして赤間關と相對し共に砲臺の設あり、天然の良港なり。小倉(人口二萬)は其西南にあり、商業盛にして小倉織を産じ、十二師團司令部あり、海陸の便を占むれども港内大船を容るゝに便ならず、前に彦島あり。

(大分縣の部)中津(人口二萬)は山國川の右に位し、奥平氏の舊城地なり。山國川は源を西南の英彦山より發し、上流



耶馬溪の圖

に耶馬溪あり。奇巖流水に洗はれて峙ち出で、其間に生ひ出でたる木々の或は縦に、或は横に、或は倒になれるありて、仰ぎ見れば山々の峯高く秀で、其姿珍らかに、見下せば岩に碎くる瀧津瀬の、其音おどろくしく、其色雪よりも清くして、そゞろに人の心を澄ましむとなん。其東に驛館川あり。宇佐は

其東南に在り、宇佐社(官幣大社)には應神天皇、神功皇后を合せ

大分縣の  
豊前、  
豊後、  
豊前、  
豊後。

祀れり。○産物は煙草、麥、麻、石炭、小倉織、紙、門司硯、種油等。  
豊後 豊前の東南に在り、東は海に臨み沿岸出入多し。  
南方日向との界に在る諸山の中にて祖母岳最高し、又  
筑前豊前に勝がれる英彦山には英彦神社あり、天忍穂耳  
尊を祀る。○國東半島は東北に斗出し、周防灘を隔て、  
山陽道の西部と相對す、海上に姫島あり。半島の中央に  
は雙子山(山活火)文珠山聳ゆ。其南は大分灣にして  
大分川、大野川之に注ぐ。大野川最大く、舟運灌溉の便  
多し。大分(人口二萬)は大分灣に臨み大分川に沿ひて、鑛物、  
檜物、細工を産し、大分縣廳の在る所なり。其西北の別  
府は名高き温泉場にして遠近の浴客常に絶えず、其近

肥前、  
大分縣、  
佐賀、  
長崎、  
西長崎縣。

傍に鶴見山(山活火)、由布岳(山活火)あり。佐賀、關は東に斗出  
せる要港にして伊豫の佐田崎と相對し、其間を佐賀、關海  
峽と云ふ、即古の速吸門なり。白杵(人口一萬)は其南に在りて  
白杵灣に臨む港なれども交通不便なり。産物は南に大  
豆、藍、沿海に魚、鹽の産多く、其外、木綿、烟草、麻、紙、鑛物、疊表等。  
肥前 東は筑前に界し、三面共に海に臨みて港灣、島嶼  
甚多し。此國は特に長崎によりて世に知らる、然れども  
長崎縣に屬するは、只其西部にして、東部筑後川に沿へる  
九州第一の沃野は佐賀縣の管轄なり。○筑紫海(有明洋と)  
は肥前と筑後との間にあり、其南を島原海と云ふ、島原  
半島此所に斗出して温泉、岳高く烟を噴き、東岸に島原

長崎縣  
肥前郡  
西岐部  
對馬、

の名邑あり、寛永の昔、徳川三代將軍の時、島原亂ありし所なり(これ九州の耶蘇教徒が益田四郎時貞を謀主として企てしものにして此時板倉重昌討死せり)。此半島の西南端に口津の要港あり、早崎、瀬戸に臨む、之を西に出つれば天草洋にして、此所に斗出する野母崎を廻れば西側に深く凹入して長崎港あり。○長崎(人口七萬四千)は西海第一の良港を控へ、長崎縣廳あり、我國の最舊き開港場にして、徳川氏の中頃より蘭學、醫學の最盛なる所なりしが、今猶貿易盛に且第五高等學校醫學部あり。西彼杵半島西北に延長し、内に鯛浦(大村海)を抱く、其對岸の佐世保(人口三萬千)は軍港の一にして第三海軍鎮守府の所在地なり。其西に在りて其名の高島は周回一里に足らぬ小島なれ

佐賀縣  
肥前郡  
大部の

ども石炭脈、海底にまでも擴がれりて其採掘盛なり。遂に其西に五島列島あり、紀伊、土佐にも優りて捕鯨盛なり。之より東北へ向ひ、平戸島と本山との間なる平戸、瀬戸を出づれば伊萬里灣の口に鷹島あり、弘安の昔、元兵攻め來りて其兵船を此所に集めたりしが、俄に吹起る暴風の爲に覆され、且吾兵に攻亡ぼされて、あはれ水底の藻屑となりけり、而して此沿海には海藻及び鯛、鯷、鰯等の産いと夥し。

(佐賀縣の部)北岸は壹岐海峡を隔て、壹岐に對す。護屋は秀吉が朝鮮征伐(文祿年間)の時、陣營を設けし所、唐津は松浦川に臨み、陶器、石炭の産地にして、唐津燒殊に名高

し。佐賀(人口二萬七千)は國の東南にありて筑紫海に臨み、鍋島氏三十五萬餘石の舊城地にして佐賀縣廳あり、明治七年江藤新平此所に佐賀亂を起しき。遙に其西に在る伊萬里、有田も陶器を以て名あり。但、伊萬里は其積出所なれど、世に有田焼を伊萬里焼とも云ふなり。有田の東なる武雄は名邑にして温泉あり。○産物は米、麥、烟草、石炭、陶器の外に鯨、鱈、海藻等の水産物多し。

肥後 北と東は筑後、豊後、日向に境し、西は海に面す、九州第二の大國にして農産は其第一を占め、肥後米の名世に高し、されば之によりて田野の廣く且肥沃なるを知るべし。東部は山岳多く、西部は土地漸低くして概、平野なり。

熊本縣  
肥後

川には菊池川、白川、綠川、球磨川あり、皆西流す。菊池川に沿ひて上流に隈府(菊池氏の古蹟)下流に高瀬あり。熊本(人口五萬二千)は白川の北に位し、細川氏五十四萬石の舊城地にして熊本縣廳、第五高等學校、第六師團司令部あり、熊本城は加藤清正の築きしものにして、明治十年の役には司令長官谷將軍之に籠りて防戦せり。其南なる綠川の北岸に川尻の名邑あり。其西南に斗出せるは宇土郡と云ひ、嘗、小西行長の封せられし所にして西端に三角港あり。南に八代灣あり。八代(人口一萬)は球磨川の下流に位す、球磨川は東部の山間を屈曲して流れ、人吉、八代を経て海に入る、吾國三急流の一なり。○阿蘇山は熊本の東十一里

其他の名  
邑(水俣、  
佐敷、山  
鹿)

に在り、信濃の淺間山に亞ぐ活火山なり、五峯並ひ聳え之を阿蘇の五岳と云ふ。又熊本の西なる金峰山（金山）は舊火山にして十年、役に激戦ありし田原坂、吉次越其麓に在り。日向との界にある市房山（尺六千）は九州第一の高峰にして其西の五箇、莊は球磨川の源に位し、平氏の後裔の住ふ所なり。○宇土郡より僅に三角、瀬戸を隔て、西に大矢野島あり、之に並ひて八代灣の西に在るを天草群島と云ふ、東の上島、西の下島大なり、下島の西北端を志岐崎と云ふ。此あたりには不知火と云ふものあり、毎年七月（大陰曆）晦の頃の暗夜に海面に光り閃きて見ゆるなり、景行天皇西征の時にも其事ありて、それより近邊の國を火國と呼

宮崎縣  
日向。

ひたりと見ゆ、後に火前の國、火後の國と分ちしは、やがて今の肥前、肥後なり。○維新の頃此國より横井小楠（平四郎）出でたり。産物は米、麥、綿、粟（日本一）、藍、烟草、甘藷、大豆、榎實、茶、材木、石炭、硫黃、八代の疊表等。

日向 九州第一の大國にして北は豊後に境し、東に日向灘あり、海岸屈曲甚少し。西、肥後、大隅との境に山岳連り、川は概、東へ流る、其重なるものは五箇、瀬川、美々津川、大丸川、一瀬川、大淀川なり。五箇、瀬川の下流に延岡あり、其南なる細島崎の傍に細島港あり。美々津は美々津川の南に、高鍋は大丸川（高鍋川）の南に在り。宮崎（八千）は大淀川に跨り、宮崎縣廳の在る所なり。南に油津の



良港あり。都城(人口一萬三千)は大隅への通路に當り、其宮丸村は高千穂宮の舊跡なりと言ひ傳ふ。小林(人口一萬二千)は國の西南に在り。○霧島山は西南に在る火山にして東西二峯に分れ、東峰はにぎ尊の天降りきと云ふ、天千穂峯なり、西側の火口より今も噴烟立上れり。山上に天逆鉾あるによりて矛峰とも呼ばる。又西峯をば一に韓國岳と云ふ。志布志灣は西南端に在りて大隅との間に挟まり、東に永田岬、都井岬あり、灣頭に志布志の名邑あり。○日向は土地廣く平野多けれども、未開の所多く、人少ければ製産物の著しきものなし、只日向半紙、樟腦に次ぎて砂糖、及茶の製造、稍見るべし。其外、米、麥、甘藷、甘蔗、材木等

其他の名  
邑(郡邊、  
佐上原、  
飲肥)

あり。

大隅 東は日向に界し、西に薩摩、及鹿兒島灣あり、南端を佐多岬と云ふ。國內山岳多く平地少く、土地肥瘠相半す、市邑の大なるものなく、只加治木、濱市、國府、福山の名邑あり。國府は烟草の名産地、福山の近傍は良馬の産地なり。それより南は中央狭くして、東に志布志灣あり、大崎其口に斗出す。○櫻島は鹿兒島灣内に在り、中央に櫻島嶽聳え、北嶽は其高峰にして、斷えず火烟を噴出す。全島土地肥沃にして、人家其山麓を繞り、蜜柑、烟草の畑相交りて、産物豊かなり。大隅の南に在りて大隅に屬する諸島は種子島、馬毛島、屋久島、口之永良部島、及遙に

其南に在る大島諸島（大島喜界島徳之島沖之島永良部島與論島等）なり、輿論島は大島諸島の最南に位し、琉球諸島其西南に在り。又大島の北に在る小島は薩摩の寶七島なり。大島は西郷隆盛の流されし所にして砂糖、縞紬、疊表を産す、西北に名瀬の要港あり。種子島は天文年間、葡萄牙人が初めて銃器を持來りし所にして是より銃器吾國に傳はれり、又此島には牛馬と稱して馬頭牛身の奇獸を産す。此等の諸島の風俗は概琉球に類す。○産物は國府烟草、茶、鯨、大島の砂糖、縞紬、疊表、永良部鰻、馬。

薩摩 北部に川内川（カハナガハ）あり、九州第一の長流にして、且九州三大川の一なり。其北に在る阿久根村（アキネ）は

鹿兒島縣  
大隅  
薩摩。

其他の名  
（邑）知覽  
南方、伊  
作、串木  
野、出水

焼耐の名産地なり。川内川の南は地形漸狭く、更に南に至れば又廣くして西に野間崎斗出し、其東に野間岳あり、北岸に片浦あり。片浦の東の加世田村（カセタ）は古笠沙崎（カササキ）と云ひて、にぎ尊の上陸せし所なり。南岸に坊津あり。東南の開聞岳（カミナリ）は薩摩富士と呼ばれて舊火山なり、其近傍の池田湖は灌漑の便多し。○鹿兒島（カ）（五萬）は鹿兒島灣の西岸にあり、島津氏七十七萬石の舊城地にして鹿兒島縣廳あり。西北の城山は西郷隆盛が「秋風埋骨故郷山」と詠じて其部下と共に討死せし所、人をして、あたらし英雄の身の終を忍ばしむ。鹿兒島灣に沿ひて鹿兒島の南に谷山（ヤノ）（人口二萬五千）揖宿（ヨシヨク）の名邑あり。○此國

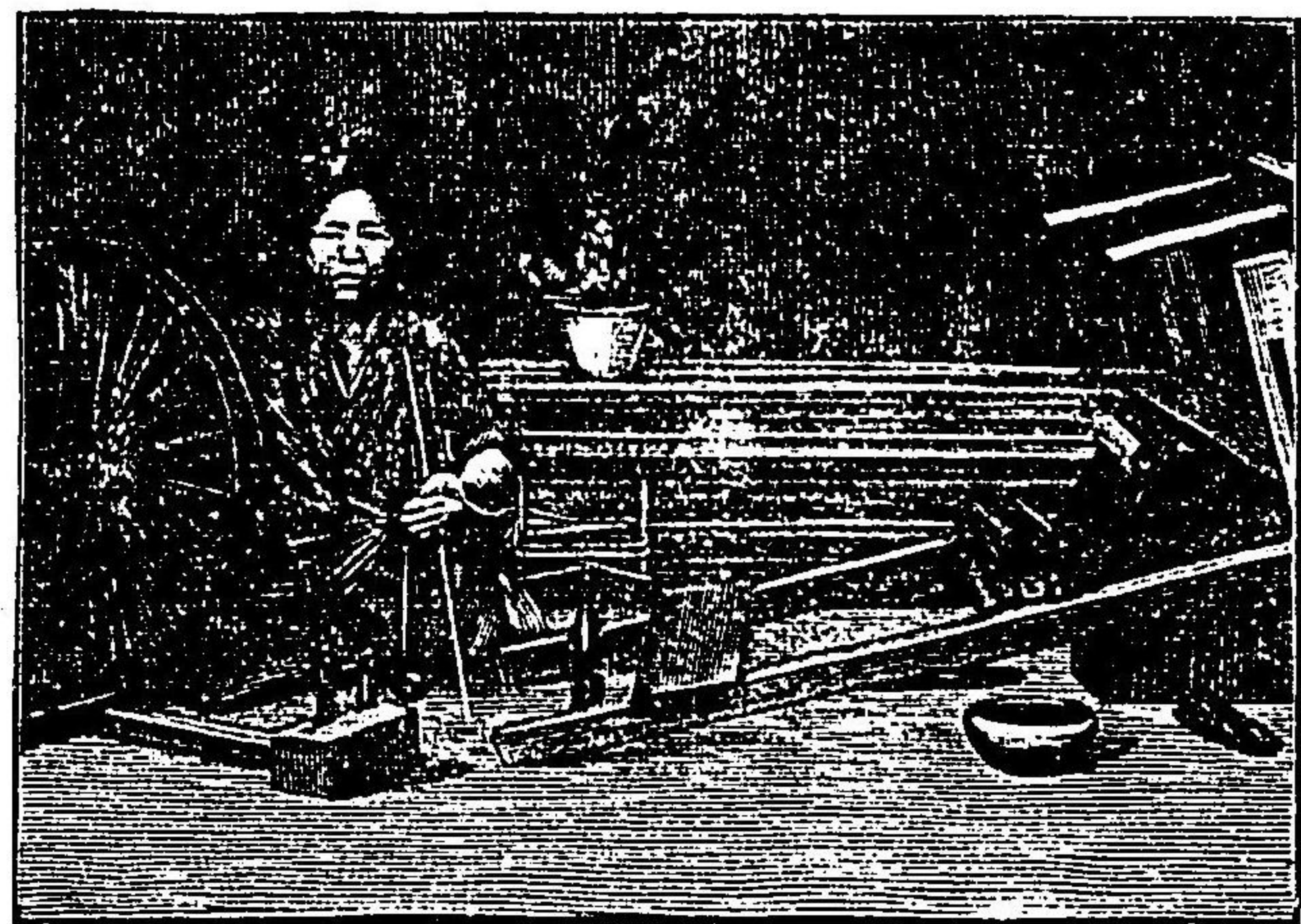
には西北天草群島の南に獅子島響島伊唐島長島等あり。西北岸と長島との間は潮勢いと急なり、之を黒戸瀬又は隼人瀬戸と云ふ。西の沿海には飯島あり、上中下の三より成る。南には黒島琉黄島(硫黄を産す)竹島(竹を産す)あり、此三島と其南の寶七島(口之島中之島諏訪瀬島臥蛇島平島惡石島寶島)とを合せて之を川邊十島と云ふ。○産物は烟草甘藷砂糖鯉節薩摩上布薩摩飛白薩摩燒等なり。又薩摩馬は形小けれども足疾きを以て名あり。

壹岐 肥前の北七里に在り、東は玄界洋に臨み、西北は對馬海峡を隔てて對馬に對す。地味よく漁業も盛にして鮑雲丹を名産とす。北岸に勝本(カサノ)の名邑あり。

對馬 壹岐の西北十二里にあり、北は朝鮮海峡(十五里)を隔て、朝鮮の釜山に對す。宗氏の舊領地にして南北二

島よりなり、南を下縣、北を上縣と云ふ、其間は淺茅浦の水淺からずして大艦を容るべく、内に竹敷港あり。沿海は漁業に宜しけれども内地は肥沃ならず。下縣の東岸に巖原あり、上縣の北端に鰐浦あり。鰐浦の傍の佐須奈西岸の鹿見は竹敷と共に良港なり。文永弘安の昔、元兵筑紫に寇せし時、此國は壹岐と共に慘狀を極めき。今も國防上重要な所なり。○産物は海産物甚豊かにして雲丹鳥賊鱒殊に多し。陸産は擧ぐべき程の物なけれども、牛馬椎茸を産し、殊に牛は良種にして對州牛の名世に高

琉球諸島 大隅の輿論島の西南に羅列し其數五十あり、之を大別して沖繩諸島、宮古諸島(先島諸島)とす。沖繩諸島の中にては沖繩島最大なり。又宮古諸島の重なるものは宮古島、石垣島、入表島(イリテ)にして、其最南の小島を波照間島(ハシマ)と云ひ、石垣島より西なるを八重山群島と云ふ。○琉球諸島は何れも山岳多く平地少し。地味は肥瘠相半し、概畑にして甘蔗、甘藷等を植う。氣候温暖にして冬も猶春の如くに草木花を開き、夏は海風(東北貿易風)断えず吹くが故に熱さに苦むとなし。春秋には颶風の恐あり。海岸良港なし。○言語、文字は粗内地に同じ。



琉球の風俗圖

男女簪を以て髪を束ぬ。

諸島共に郡區の設なく、全部を四十三間切に分ち、沖繩縣を置き、之を管轄す。○沖繩島を三部に分ち、北を國頭(クニガト)、中部を中頭(ナカガト)、南を島尻(シマシラ)と云ふ。諸島の人口四十三萬の中にて三十五萬は此島に住ふ、北方に運天港あり。那覇(ナハ)區は島尻の西岸にありて(人口四萬四千)、那覇港に臨み、沖首里(シムリ)は(人口二萬五千)は

繩縣廳、諸官署、學校等あり、商業盛なり。

其東一里に在り、元の藩王尙氏の舊城地にして今は第六師團の分遣隊の營所あり。○産物は砂糖、甘藷、泡盛(酒)、飛白、上布、芭蕉布、漆器、藍等にして魚介の利も多し。

(九州山脉) 九州山脉に南部山脉、北部山脉あり。但爰には只其火山脈に就きて述べん。九州の火山脈に霧島火山脈、阿蘇火山脈あり。霧島火山脈は西南の琉球諸島より連続し來りて大島諸島、川邊諸島、口永良部島を起し、開聞岳(薩)、櫻島岳(隅)となり、霧島山の高峰となり、西北に向ひて温泉岳(原)多良岳となる。○阿蘇火山脈は熊本の西なる金峰山より東へ走りて阿蘇山、祖母岳となり、北へ向ひて涌出山(涌蓋山肥後の東北)、英彦山とな

蝦夷島を  
北州とも  
云ふ

り、又東して豊後に入り、鶴見山、由布岳、雙子山となり、海に没して四國に入る。蓋阿蘇脈は霧島脈の分岐せしものなるべし。○因に曰ふ、能登火山脈は隱岐を経て壹岐に渡り、其西南なる大島、度島、生月島、平戸島となりて五島列島に至れるなり。

北海道

北海道は古の蝦夷島、及千島諸島よりなる。蝦夷島の面積は四國九州を合せたる二倍にして、本州の三分一に當る大島なり、其西南端は津輕海峡を隔て、本州の北端陸奥と相對し、西は日本海に臨み、北端は宗谷(埜)海峡を

隔て、樺太に對し、沿岸はオコック海に臨み、東端は千島諸島に對す。或は之を鱈魚イカダに象りて東端、根室を頭とし、後志、渡島等を尾と見做すあり。蝦夷島を分ちて渡島、後志、石狩、天鹽、北見、根室、釧路、十勝、日高、膽振の十國とす。○千島は蝦夷島の東端より東北に羅列して露西亞領勘察加に至る數多の小島なり。

**渡島** 本道の西南に在る半島國なり、三面海に臨み、津輕海峡(七里)を隔て、陸奥に對す、東に惠山岬あり。南岸の函館(區)は五港の一にして(七八口)商業盛なり。五稜廓は函館の北一里半に在り、幕府の築きしものにして維新の頃榎本武揚等此所に籠り劇戦せり、其外濠より盛に氷を

産出す。それより遙に西南端なる白神岬は陸奥の龍飛岬に對して津輕海峡の西門をなす。西北の福山(八口一萬五千)は昔松前と言ひて蝦夷の首府なりし所なり。其北に當りて西岸に江差(八口一萬四千)あり。森は其東北に在りて噴火灣に臨み、膽振の室蘭港と相對する要港なり、且、南方函館との間には馬車を通じ、七重(七飯村)の種畜場も其間に在り。

**後志** 膽振の北西に在りて、北と西とは海に面する狹長の地なり。南に利別川あり、其西南に奥尻島あり。北部の積丹半島に神威岬、積丹岬あり、其南の灣を後志灣と云ひ、東なるを小樽灣と云ふ。後志川は源を膽振

の後方羊蹄山(之はマクカリメクリと云ふが正しとの説あれども利なりと思ひてなん)に發し、國の中央を西へ流れて後志灣に入る。川口の西南に壽都あり、東北に岩内あり、共に碇泊に宜し。○小樽(四萬人口)は小樽灣の南岸にある要港にして札幌(石狩)との間に鐵道あり、内地への貨物は概之によりて運送せられ、商業盛なり。○全國の地味肥沃にして農桑牧畜に適し、山には林茂り、川にも沿海にも魚族多し。

石狩 西は石狩海に面し、渡島、根室、釧路を除きて其他の六國と界を交ふ。○札幌(區人口三萬四千)は國の西南に在りて豊平川に沿ひ、北海道廳の在る所にして有名なる農學校を始とし、第七師團司令部、炭鑛鐵道會社、製糖會社、製

石狩川の  
中流にカ  
ムキコリ  
ンの急流  
あり  
石狩平原  
南北三  
十七里  
幅平均  
五里

麻會社等あり。鐵道は小樽より來り、岩見澤を経て幌内、郁春別、空知等の炭山に至る。○石狩川は吾國第一の大川にして源を東の石狩岳の大瀑(高さ百五十丈幅六間)に發し、北より來る雨龍川に會し、南流して江別川、夕張川、千歳川の下流、豊平川と合し、石狩灣に入る。沿岸の廣野には農場數多開け、川流には鮭多し。東部の旭川は旭川離宮の設けらるべき地にして本島の中央に位し、最寒し(平均溫度攝最高十二度餘、最低永點下三十度餘)。東方、十勝との境に十勝岳、石狩岳あり、南方、日高との境に夕張岳あり。

天塩 石狩の北に在りて西は海に面し、東北は北見に境す。海岸屈曲少く、西南に増毛の良港と留萌港ある

のみなり。天鹽川は源を東南境の天鹽岳に發して西北へ流れ、西南へ曲りて海に入る。近海に鯨、鮭、鱈の漁あり。

猿間湖、網走湖、共に鹹湖、網走湖は産に熊取湖あり

北見 本道の北部に位し、北はオコツク海に臨む狭長の地なり。西北端に野斜布岬あり、其隣の宗谷岬は宗谷海峡(十二里對馬海峽と同距離)を隔て、樺太に對す。野斜布岬の西に當りて日本海に禮文島あり、其東南に利尻島ありて鯨漁盛なり。又知床岬は遙に東端に在り。海岸砂濱にして、殆屈曲なく僅に猿間湖(周回十八里)、網走港(港良)あり。川は猿間湖の西に湧別川あり、東に常呂川あり、網走川は網走湖を経て網走の西に注ぐ。湧別川の口の西北に紋

す。其東に熊取湖あり

別あり、野斜布岬の近傍に稚内あり。○宗谷岬は本地の最北に在れども暖海流を受けて温度を加へ、網走は遙に其南に在れども寒海流を受くるが故に寒威却りて強し。○常呂、網走の平原は地味肥沃なり。

根室 本道の東端に在りて西北は北見、西南は釧路に包まる。東は根室海峡によりて千島の國後島に對し、納沙布岬東南に斗出して根室郡の半島となり、内に根室灣を抱く。根室は其灣頭に在る要港にして、辨天島其前に在り。此半島の南岸なる花咲港も要港にして、根室灣の氷結せる間は船舶茲に來泊す。根室の西に楓連湖あり、楓連川之に注ぎ、北に西別川、標津川あり。西別川



には鮭鱒の孵育所あり。

釧路 根室の西に在りて北は北見に境し、南は太平洋に臨む。東南の厚岸灣は入口に大黒島あり、内に厚岸港あり。其西の釧路川は源を北方の釧路湖に發し、阿寒川は阿寒湖に發し、相會して海に入る、川口に釧路港あり。釧路湖の東なる硫黄山には盛に硫黄を産し、鐵道によりて之を標茶に送り、釧路川を舟にて下すなり。阿寒湖の西に雄阿寒岳、雌阿寒岳あり。

十勝 釧路の西南に在り、東南は海に面し、海岸屈曲極めて少し。十勝川、國の中央を流れ、下流は二派に分る。東なるは十勝川にして、川口に十勝村あり、西なるは大津

川にして川口に大津村あり。十勝川の上流にも亦東北より來る利別川あり、其西に音更川、燃別川(源を燃別湖に發す)等ありて、相合して十勝川とぞなる、其流域は即、廣大なる十勝原野にして地味肥沃なり。

日高 十勝の西南に在り、西南は海に面し、十勝に似て海岸の屈曲少し、東端に襟裳岬あり、それより西北に當りて海岸に幌泉、浦河の二邑あり。川は殆、並行して悉、西南へ流る、何れも小くして西南の沙流川稍大なり。西北の新冠ニハカガシは有名なる、牧馬場なり、其外にも牧場多し。要するに此國は牧畜に適せり。○日高はアイヌ人の最多き國なり(凡六千人)アイヌ人とは即蝦夷民族にして蝦の如く

鬚あるによりて然言へりどぞ。昔は東山道などにも居りて大和民族と生存競争をなしたりしが次第に追はれて其數もいたく減じ今は北海道の或部分にのみ(凡一萬七千人)住へり男子は概弓矢を持ちて山に獵り、漁具を携へて川に漁り、或は雇はれて漁業に従事す、又女子は家に在りて衣食を調ふ。衣服は左衽にして毛皮を用ひ、又はあつしとて樺皮にて作りたるもの



アイヌ族の圖

を用ふ。

噴火灣は近傍に噴火多き故に此名あり  
 膽振 日高の西に在り、北は石狩、後志に境し、南は海に臨む。南に繪鞆岬斗出し、渡島と相對して内に噴火灣を抱く。此岬の傍に在る室蘭港は軍港として第五海軍鎮守府の設けらるべき所なり、鐵道此所より東北の苫小牧を経て石狩の岩見澤に至る。○東に支笏湖あり西に洞爺湖あり、千歳川は源を支笏湖に發し、中流に鮭の孵育所あり、石狩に入りて石狩川に合す。支笏湖の東南にある樽前山は熄火山なりしが明治十九年より俄に火烟を噴出して活火山となれり。洞爺湖の西南に有珠港あり。此國にもアイヌ人(三千五百人許)住へり。

千島 根室の東北に羅列せる諸島にして其數三十二  
 皆火山脈に屬し硫黃を産す。其重なるものは國後色  
 丹ダン擇捉ワルツツ得撫ドホ新知シチ恩補オンポ古丹コタン幌筵ホウゼン占守シム等なり、全島の  
 人民一千四百許あり。國後島の東北端にチヤキヤブ翁嶽あり。  
 又色丹島の斜古丹は良港なり。最大なるは擇捉島にし  
 て寛政年間近藤守重此地に渡り大日本惠土呂府と大  
 書したる柱を建てたりき。其紗那港シヤナは碇泊に便なり。  
 此島と得撫島、新知島とはアレウト人住へり、之は昔  
 露西亞政府の移住せしめし民の裔にして髮、腫共に黒く  
 粗製の麵包及魚類を常食とし、流木を拾ひて家を作る。  
 得撫島と新知島との間にホッス海峡あり、此海峡より西

南の島々には樹木茂り且稍良港あれども、東北の島々は  
 然らず(流木を拾ひて用ふ)。但、臘虎、海豹、鯨等の海産物は西南部より  
 も東北部に夥しく、西南部には鮭、鱒、昆布多し。得撫島よ  
 り東北は元露西亞領なりしを明治八年樺太と交換して  
 我國の領地とせり。○占守島は千島の東北端にあり、千  
 島海峡を隔て、露西亞領勘察加に對す、報公義會員の移  
 住せる所なり。其西の小島をアライト島と云ふ、我國の  
 極北の地なり。  
 (山脉) 既に述べたる如く千島諸島は火山質なり、而して  
 北海道の山脉は千島火山脈と樺太山脉とよりなれり。  
 樺太山脉は宗谷岬と野斜布岬に起り、宗谷岳に至り

て相合し、北見、天鹽の境をなして東南へ走り、天鹽岳トウソウ常呂岳となる。又天鹽川の西にも樺太山脉の一派あり、天鹽石狩の境に於て二となり、一は西南へ向ひて石狩海に没し、一は東南へ向ひて前の樺太山脉に合し、石狩の東境を過ぎ、又東南へ向ひて日高山脈となり、神威岳カムイを起し、襟裳岬に至りて海に没す。

千島火山脈は千島より來り、知床岬を西南へ走りて硫黄山、良牛山ラウウを起し、釧路の跡佐登岳となり、雄阿寒、雌阿寒の二岳を起しつゝ、釧路の北境を西へ走り、樺太山脉に會して、十勝、石狩の境に石狩岳、十勝岳、オノタシケ(共に消火山)等の高峰を聳えしめし後、樺太山脉と別れて西へ走り、夕

張岳となり、膽振、後志に至りて、惠庭岳(支笏湖の北)、樽前岳、有珠岳、後方羊蹄山等の後志山彙を起し、噴火灣を過ぎて渡島に入り、渡島山脉の東部なる駒岳、大川岳、惠山となりて海に没す。(此火山脈は奥羽に入りて恐山、火山脈、岩木火山脈等となる)。而して火山の近傍には所々に温泉多し。○猶此外に渡島半島の中央を通りて白神岬に至れる山脉(即渡島山脈の西部)あれども火山脈に非ず。  
(氣候) 北海道は其南端、北緯四十一度二十一分に位し、それより北に延長せるが故に本州より一層寒冷なると、更にも言はず、冬の間は其温度概氷點以下に在りて、殊に内地の寒さ一般に嚴しけれども、海岸は其緯度の高きに比ぶれば暖かなると次の表の如し。

平均	最高 温度	最低 温度	函館	札幌	宗谷	旭川	網走	秋田	長野	東京
八、三	二九、八	(一)二〇、 <sub>二</sub>	(一)三三、 <sub>六</sub>	(一)三一、 <sub>二</sub>	(一)二六、 <sub>二</sub>	(一)二二、 <sub>一</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三四、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>
六、九	三二、二	(一)一六、 <sub>一</sub>	(一)三〇、 <sub>六</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三五、 <sub>八</sub>	(一)四二、 <sub>一</sub>	(一)四二、 <sub>一</sub>	(一)四二、 <sub>一</sub>
五、六	二六、二	(一)一〇、 <sub>六</sub>	(一)三〇、 <sub>六</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>
五、二	二二、一	(一)一〇、 <sub>六</sub>	(一)三〇、 <sub>六</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>
五、九	三三、四	(一)一五、 <sub>八</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>
一〇、三	三三、三	(一)一五、 <sub>八</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>
一五、八	三四、三	(一)一五、 <sub>八</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>
一四、〇	三四、三	(一)一五、 <sub>八</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>〇</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>四</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>	(一)三三、 <sub>三</sub>

上の表は明治二十九年の調査にして(一)印は氷點以下なり、攝氏の寒暖計による

此の如く旭川(川上)最寒し、而して宗谷が北端にありながら比較的寒からざるは南より来る暖海流あるに由ると前に言へり。又東南の海岸は親潮(寒海)のあるに由りて比較的西岸より寒し。○寒暖二海流の相會する所は霧深くして日光遮らるゝ爲に寒さを増し、或は此霧を

を風の吹き送るありて所々の温度に變化起る、例へば根室の温度が七八月の頃、宗谷よりも低き所以、一は爰に在り。○雪の降ると固より多し、然れども雨量の多からぬ土地なるが故に、温度の低き割合には、寧ろ雪の少き方なり。雪の降り初は札幌に於いては十月十一日の頃にして、融くるは三四月頃なり。然れども根室に於いては五月の初に猶雪を見るとあり。

(政治) 明治二年開拓使を置き、土地の開拓と人民の來住とを奨励せしが其後、開拓使廳を廢して北海道廳を置き北海道長官之を管轄す、別に府縣の區劃を設けず、人口七十餘萬にして(明治二十七年より年々五萬許の増加あり)一方里の平均、凡

百人(東海道は一方里に付三千七百人)なり。

(産物) 土地概肥沃にして耕作に適し、豆、麥、馬鈴薯、藍、蕎麥、麻、甜菜(之より砂糖を製す)、葡萄、林檎等を産し、桑も自生せるが多し、且、山野は森林に富み、椴、松、蝦夷松、五葉松等松柏科の植物を初として樺、桂等多し。沿海は豊魚帯に位し、鯨、鮭、鱈、鱈の産額夥しく、殊に南の沿海には昆布多し。千島沿海には鯨、海豹、臘虎、臘肭臍を産す、然れども臘虎、臘肭臍は漸く減ずる有様なり。○鑛物も種々ある中に石狩の夕張、空知、幌内の石炭、釧路の硫黃山、の硫黃殊に有名なり。北見には夥しく砂金を産す。

### 臺灣

臺灣は遙に琉球諸島の西南に在り、北は北緯二十五度十八分より南は同二十一度五十四分に至る所の大島にして九州よりも稍小く、其形、木の葉に似て南北に長く、北の富貴角より南の南岬迄、長さ約百里、幅廣き所三十里なり。西北は臺灣海峡によりて支那の福建省に對す(其間四十里餘)。此島は吾國人が昔、高砂(たかすな)と呼びし所にして、西洋人は之をフォルモーズ(Formosa)と言ふ、美しき土地の意なり。山脉稍、東に偏して南北に連り、東部は海に至る迄、傾斜急にして平野極めて少く、概、山谷なり。此所には生蕃とて

殘忍野蠻の民族住へり、其沿海は百尋以上の深さなれども海岸に絶壁高く峙ち、港甚少し。西部は傾斜緩かにして平野多く、土地肥沃、産物豊饒なれども沿海遠淺にして良港なし。又川流は西部に多くして概西流す、然れども大なるものなし。○屬島は西の方、臺灣海峡に澎湖列島あり、西南の沿海に小琉球島あり、東南に火燒嶼、紅頭嶼あり。

政治區劃は左の如し。

臺灣區  
縣 臺北、臺中、臺南、  
廳 宜蘭、臺東、澎湖。

縣には各知事あり、臺灣總督其上に立ちて之を統括す。

本島の東北端を三貂角と云ひ、其西北端富貴角との間に鼻頭岬、基隆(雞籠と)港あり。基隆港(一口)は重に石炭の輸出港にして前に基隆島を控へ、港内水深く大艦を容るゝに足れども東北風の防ぎ難きが欠點なり。基隆川源を其北東に發し、西流して淡水溪に入る。淡水溪は新店溪、大姑陷河の下流にして、源をシルビア山に發し、北流して淡水港に注ぐ。淡水港(一口)は茶の輸出港なれども満潮の時に非ざれば大船を通ずべからず。其東南なる臺北府(八口二)は大稻埕(北に在り、新街と云ふ、烏龍茶の産地にして外國人も多く住へり)、艋舺(西南に在り、舊街と云ふ)の間に位し、本島の最大都府にして四面に山を繞らし、淡水溪に沿ひ、京都の風情あり、臺灣總督府

臺南は  
古、鄭成  
功が都を  
定めし所

及臺北縣廳の在る所なり。遠く其西南に新竹あり、香山港あり。新竹の遙に南に在る苗栗は樟腦の産地にして後壠溪の中流に位し、山中に石油出づ。後壠溪の口に後壠港あり。○臺中府は臺中縣廳の在る所にして、もと臺灣府と言ひき、大肚溪其北を流る。西に彰化あり。彰化の西なる鹿港は支那大陸に最近き港にして、重に樟腦を輸出す、支那船數多集り、商業盛なり。嘉義は臺中の南に當り、内地に位す。○臺南(人口十餘萬)は嘉義の西南に在り、長く本島の首府として最盛なる都會なりしが、其後(明治九年頃)首府を臺中に移して此所をば臺南と名けたり。今は臺灣第二の都會にして臺南縣廳あり。其西の安平

港(人口一萬五千)は屢、暴風の患あれども商業盛にして砂糖、樟腦を輸出す。打狗港は臺灣の南にあり、砂糖の輸出盛なり。しも港内漸淺くなりて商業も次第に安平に移る有様なり。其東北に鳳山あり、下淡水溪遙に其東を流る、溪口に東港(人口一萬)あり、其近傍は米穀の産地として有名なり。恒春は極南に位す、其北の山中に牡丹社あり、嘗て我が漂民を虐殺したる蕃族の部落にして、明治七年吾國より之を征討しき。又東港の東北に當りて東沿岸に近き卑南は臺東廳の在る所なり。宜蘭は臺北の東南に在りて東沿岸に位し、宜蘭廳の所在地なり、住民の大部は熟蕃と云ふ民族にして基督教を奉ずる者多し。其東南七里に



蘇澳あり、港内水深し。○澎湖列島は臺灣海峡にありて其中、白沙島、漁翁島、澎湖島最大なり、冬季は殊に東北風烈しくして喬木成長する能はず、澎湖島は其地質珊瑚質なり、西部の馬公<sup>マウ</sup>は馬公灣に臨み臺灣區第一の良港にして澎湖廳此所に在り。

(住民) 臺灣の土民は大凡三百萬を越え二種に大別せらる。(一)蕃族、何時の代よりか夙に來住せし蒙昧の民族なり。(二)其後支那大陸より移住せし者にして住民の大部を占む。而して其間に烈しき競争起りて支那人次第に勝を制し、蕃族を東部の山地に追拂ひ、且其一部を従へて農饒なる平野を占領せり。支那人の中には明の遺民即



臺風俗圖

ち彼の鄭成功と共に本島を本據として明朝を再興せんと勉めし者どもの子孫もあり。又客家とて廣東<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>の山地より來りたる民族の強暴にして忍耐深きもあり、之は重に樟樹の採伐に従事す。其外に辮髮の支那人もあるなり。蕃族の中にて支那人に從へるを熟蕃<sup>平埔</sup>と云ふ、概琉球諸島より漂流し來りし者なるらしく、今は甚蒙昧の民に非ず、稍文化を受け、温

臺灣の山  
の高さは  
未定かな

順勤勉にして支那人とも雑居し、且、生蕃と交通す。生蕃とは支那人に追拂はれたる多數の蕃族にして馬來群島より來りし馬來人種なりとぞ、今も猶支那人を敵視するを甚しく、残忍にして人の頭顱を得るを好み、數多之を持てる者其間に尊ばる、然れども吾が内地人をば敵視せず。重に漁獵を業とし、殆、裸体にして山谷に住ひ(故に山蕃とも云ふ)、少しく農業を營めり、之にも小區別あり。かの牡丹社は即ち此民族の一派よりなれる部落なり。○本島が日本の領土となりてより日本人も數多住ふに至れり。

(山脉) 臺灣山脉の主軸は稍、東に偏して南北に走れり、北方に於いて基隆、淡水の間に大屯山彙あり、其中に在る

シルピア山脈は重  
に白色の  
石炭石よ  
りなれる  
故に遠く  
之を望め  
は白雪の  
如しとる  
が如し

大屯山は休火山なり(數十年前迄活火山なりけり)。其東南に三貂山脉あり。更に其西南に北タンガウ山脉あり、此山脉の南なるシルピア山脈の最高峰をシルピア山(高さ一萬三千尺)と云ふ、南タンガウ山脉其東に在り。○南部の新高山脉は高峯連續して常に雪を戴き其最高峰を新高山(もとモリソン、高さ一萬四千餘尺)と云ふ。其東の海岸にも山脉ありて其間に幾何の平野あるらし、然れども本島の東部は一般に生蕃族の住へる等によりて未、探檢せられざるが故に地勢明かならず。

(氣候) 本島の中にて中央以南は殊に熱帯に位し、夏は氣候概、炎熱にして温度三十八度を越ゆるとあり、時々の

驟雨によりて僅に其熱を和ぐる程なれども高山の頂は白雪常に消えず。冬は西南部天氣晴朗にして寒さを覺えず、寒温の變化、北部の如く甚しからず、雨量も亦少し。北部の冬春二季は東北風(季候風)が吹送る水蒸氣を受けて雨甚多く、或は霧深くして一般に寒冷なり、淡水の近傍にても山上に雪の降るとあり、且、寒温の變動大なり。  
 (産物) 土地肥沃にして産物多く、森林には樟其他松杉の良材茂り、桃李、蜜柑、無花果等も多く、西部の原野には茶、甘藷(其他の類)、米、麥、甘蔗、蕎麥、玉蜀黍、烟草、藍、落花生、豆類、瓜類、麻類等の生育甚宜し。而して茶は北部に多く、砂糖は南部に多く、米、甘藷は一年二三回、茶は七八回の収穫あり。

又南部には竹、龍眼樹、杪欏、檳榔樹、椰樹等種々の熱帶植物多し。漁業は西沿海に行はれ、安平近傍に於いて殊に盛なり、重に鯉、鱒(カマス)を取る、鯖、鱈、鰻を漁し、牡蠣の種育も行はる。○畜類には豚、水牛多し。礦物も豊富なるめれど未だ探検せられず、北部には石炭、砂金、硫黃を産す。○されば臺灣は此後鐵道もますます布設せられて開拓の業進み、政務整は、北海道と南北相對して吾國の大富源たらん。

## 日本概括

### 第一 位置及面積

**〔位置〕** 日本帝國は亞細亞州の東部に在りて、亞細亞大陸の東に位し、東南に太平洋を控へたる島國なり。西に琉球諸島、臺灣ありて、島の方、南洋州のフィリピン諸島に對し、臺灣の西に臺灣海峡あり、西海道の西に東海(支那)ありて支那に對す。又西北は朝鮮海峡、日本海を隔て、朝鮮、シベリアに對し、東北は宗谷海峡を挟みて樺太と相望み、千島海峡によりて、勘察加に對し、千島を以てオコック海の東南を限り、東は太平洋の水遠く北亞米利加に達せり。

**〔面積〕** 吾國は長さ千百里、幅廣き所百里にして、其面積は

總計	二七、〇六二	方里	九州	二、三、一、	方里
本州	一四、四九、		臺灣	二、二六八	
北州	五、〇六、		四國	一、一五、	

されば本州は日本全面積の半以上を占め、北州(蝦夷)は凡、本州の三分の一、九州は六分の一、四國は九州の二分の一にして、臺灣は九州より稍、小し。

**第二 山系及川流**

**〔山系〕** 日本の山脈は二の山系に大別せらる、崑崙山系、樺太山系これなり。

**〔一〕崑崙山系** 之は支那の崑崙山脈より來り、九州を起點